四柳白山下遺跡Ⅲ

個人住宅建設にともなう

埋蔵文化財発掘調査報告書

▲四柳白山下遺跡が所在する邑知地溝帯中央部から北に香嶋津を望む

1994

石川県羽咋市教育委員会

四柳白山下遺跡Ⅲ

1994

羽咋市教育委員会

四柳白山下遺跡発掘調査

目　　次

頁
例　言 …… V
第１章　遺跡とその周辺 …… 1
第２章　調査に至る経緯と経過 …… 7
　第１節　第３次調査に至る経緯 …… 7
　第２節　第３次調査の経過（日誌抄） …… 8
第３章　第３次調査の概要 …… 9
　第１節　第３次調査区の設定 …… 9
　第２節　土層の概要 …… 10
第４章　遺構と遺物 …… 12
　第１節　遺構の概要 …… 12
　第２節　各　　説 …… 12
　　(1)柱穴および小穴　［Ｐ１～１０］ …… 12
　　(2)用途不明の遺構　［ＳＸ０１］ …… 12
　　(3)畝状溝　［ＳＵ０１～０８］ …… 12
第５章　出土遺物 …… 15
　第１節　古代の遺物 …… 15
　　(1)須恵器 …… 15
　　(2)土師器 …… 22
　　(3)製塩関係の土器 …… 22
　　(4)土製品 …… 26
　　(5)石製品 …… 26
　　(6)金属の生産と加工に関する遺物 …… 26
　第２節　中世から近世の遺物 …… 26
第６章　調査の成果と課題 …… 27
　第１節　遺構と遺物の検討 …… 27
　第２節　まとめ …… 28

写真図版目次

本文対照頁

図　版１　邑知地溝帯と四柳白山下遺跡（羽咋砂丘上空から）…… 1
図　版２　四柳白山下遺跡俯瞰…… 1
図　版３　(1)第３次調査区遠景（南西より石動山系を望む）…… 7
　　(2)第３次調査区遠景（南東より眉丈山系を望む）…… 7
図　版４　(1)第３次調査区近景（南東から）(2)重機による表土除去作業（南東から）…… 8
図　版５　(1)人力による掘進作業（南東から）…… 8
　　(2)人力による遺構掘り下げ作業（北東から）…… 8
図　版６　(1)SU05～08検出状況（東から）(2)掘り上がったSU05～08（東から）　……10・12
図　版７　(1)D・E～3・4区遺構検出状況（南東から）……10・12
　　(2)掘り上がったD・E～3・4区2(南東から）……10・12
図　版８　(1)掘り上がった柱列（北東から）(2)掘り上がった柱列(南東から）　……12
図　版９　(1)SX01検出状況（南東から）(2)SX01中心部（北東から）　……12
図　版10　(1)掘り上がったSX01（西から）(2)SX01断面(南から）　……12
図　版11　須恵器 蓋 ……15
図　版12　須恵器 蓋・有台坏 ……15
図　版13　須恵器 有台坏 ……15
図　版14　須恵器 無台坏 ……15
図　版15　須恵器 甕・壷・横瓶……15・22
図　版16　土師器 甕 ……22
図　版17　土製品・石製品……26
図　版18　上段－中世から近世の遺物／下段－柱根 ……12・26

表　目　次

頁

第１表　周辺遺跡地名表１…… 5
第２表　周辺遺跡地名表２…… 6
第３表　調査区土層分類表……10
第４表　須恵器坏蓋・相関散布図（口径・器高）……16
第５表　須恵器坏蓋・口径分布表……16
第６表　須恵器有台坏・相関散布図（口径・器高）……16
第７表　須恵器有台坏・口径分布表……16
第８表　須恵器有台坏・相関散布図（口径・台径）……16
第９表　須恵器有台坏・体部外傾度分布表……16
第10表　須恵器有台坏・相関散布図（台径・台高）……17
第11表　須恵器無台坏・口径分布表……17
第12表　須恵器無台坏・相関散布図（口径・器高）……17
第13表　須恵器無台坏・体部外傾度分布表……17
第14表　土師器甕・口径分布表……17
第15表　四柳白山下遺跡出土土器・器種構成……27
第16表　四柳白山下遺跡出土土器・用途別構成……28
第17表　四柳白山下遺跡出土土器観察表１……31
第18表　四柳白山下遺跡出土土器観察表２……32
第19表　四柳白山下遺跡出土土器観察表３……33
第20表　四柳白山下遺跡出土土器観察表４……34

挿　図　目　次

頁

第１図　位置と地形概念図…… 1
第２図　調査区周辺採集支脚実測図…… 3
第３図　四柳白山下遺跡と周辺の遺跡分布図…… 4
第４図　第３次調査区域図…… 7
第５図　第３次調査区グリッド割図…… 9
第６図　調査区土層断面図……10
第７図　調査区遺構平面図……13
第８図　柱根実測図……14
第９図　須恵器実測図１……18
第10図　須恵器実測図２……19
第11図　須恵器実測図３……20
第12図　須恵器実測図４……21
第13図　須恵器実測図５……22
第14図　土師器実測図１……23
第15図　土師器実測図２……24
第16図　土製品・石製品実測図……25
第17図　中世から近世の遺物実測図……26
第18図　第１～３次調査区位置図……29

例　　言

1．本書は、石川県羽咋市四柳町に所在する「四柳白山下遺跡」の発掘調査報告書である。

2．本調査は、個人住宅建設にともなうもので、羽咋市教育委員会が実施した。調査に係る費用は国庫の補助による。

3．調査は、羽咋市教育委員会社会教育課主事今井淳一・同嘱託牧山直樹が担当した。また庶務は同係長沢通則があたった。

4．調査期間は平成５年４月12日から５月25日まで延べ24日間を要した。

5．出土遺物の整理にあたっては、遺物洗浄・接合・記名・実測・トレース作業を牧山直樹・楠みち子・能山真登加・里見節子、図版作成を今井淳一・牧山直樹、写真撮影を谷内碩央がそれぞれ分担した。

6．遺構・遺物の挿図に対する指示は下記のとおりである。

⑴ 挿図の縮尺は掲載のスケールで示した。

⑵ 方位はすべて磁北を示している。

⑶ 水平基準は海抜高を示している。

⑷ 写真図版の遺物には通し番号を付し、本文中の挿図番号に一致する。

⑸ 土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、その他の土器類を白ぬきで示した。

⑹ 遺構の略号はつぎのとおりである。

土坑［SK］・畝状溝［SU］・用途不明の遺構［SX］

7．調査によって得られた資料は、羽咋市教育委員会が一括して保存管理にあたっている。

8．発掘調査から報告書作成に至るまで、多くの方々や機関からご教示・ご協力をいただいた。以下にご芳名を記して深甚の謝意を表したい。（敬称略・順不同）

浜岡賢太郎　四柳嘉章　小嶋芳孝　垣内光次郎　北野博司　木立雅朗　川畑　誠

石川県教育委員会　石川県立埋蔵文化財センター　石川県埋蔵文化財保存協会

四柳町町会　大町町会　酒井町町会　金丸出町会　下曽祢町会

羽咋産業建設株式会社　羽咋市歴史民俗資料館

9．本報告書の執筆分担は、つぎのとおりである。

今井淳一　第１章・第３～６章

牧山直樹　第２章

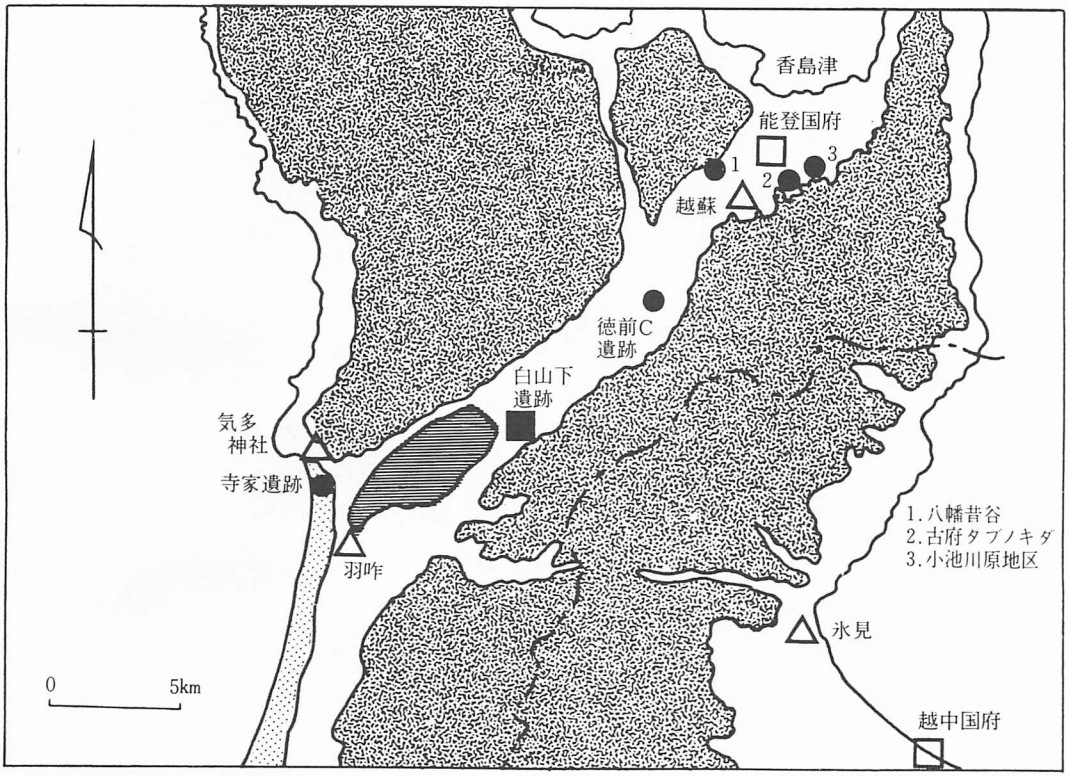
10．本書は今井淳一が編集した。

第１章　遺跡とその周辺

古代における能登国は石川県の北半部、日本海に大きく突き出た能登半島をその領域とし、養老二年（ 718）二月に越前国から羽咋・能登・鳳至・珠洲の四郡が分離して一国の扱いをうけている（第一次立国)。そのなかでも最大の生活舞台としてあり続けているのが邑知地溝帯と呼ばれる細長い沖積地であり、半島基部南西端の羽咋から北東端の七尾まで平均幅約５㎞、長さ25㎞の半島横断路として、各時代の文化形成に大きな役割をはたしてきている。

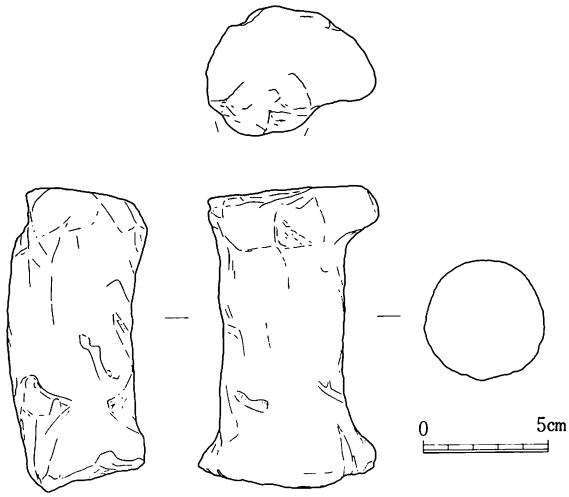
四柳白山下遺跡はこの地溝帯の中央部南寄りに位置し、旧邑知潟（干拓前）北東岸にあたる扇状地上に展開している。また、文献史料によれば、このあたりは古代の官道（駅路）に指定されており、加賀国の深見駅で北陸道の本路から支路が分岐して、地溝帯南側の石動山系丘陵の山麓沿いを北上していく道筋にあたっている。

さらに、『延喜式』巻二十八、兵部省の「諸国駅伝馬」条は加賀国の横山駅に続いて能登国に撰才（よき）、越蘇の二駅、各五疋を記しているが、このうち、撰才駅の遺称地とされているのが、現在の羽咋市余喜（よき）地区であり、『日本地理志料』や『石川県史』では式内社の餘喜（よき）比古神社が鎮座する大町および本遺跡が所在する四柳町周辺に撰才駅を想定している。余喜地区は『和名



第１図　位置と地形概念図

類聚抄』記載の能登郡与木郷に比定される地域で、この郷名の初見といわれる「越前国能登郡翼倚里」と記された平城宮出土木簡に、和銅六年（ 713）と紀年銘が入っていることから、少なくとも律令体制初期の段階には、越前国に属しながらも地方行政の末端区画として編成されていたことがうかがわれる。また、能登における官道（駅路）設定の時期は明かではないが、前述した第一次立国の段階には機能しはじめたようである。



第２図　調査区周辺採集支脚実測図

一方、余喜地区周辺は昭和二十年代に実施された耕地整理の際に、かなりの量の考古資料が出土したことでも知られていたが[1]、平成元年（1990）と翌二年（1991）に行われた本遺跡の第一・二次発掘調査からは[2]、当時の状況を探る上で貴重な考古資料が得られている。

特に、検出された掘立柱建物は三度にわたる同一地点での建て替えであり、建物以外の遺構である配石や柱列、溝なども主軸方位の同一性に基づいて配置されたものであった。これらの建物の柱穴掘形やその他の遺構および包含層から出土した墨書土器を始めとする土器群の型式は８世紀前半代を示しており、官衙的な遺跡の性格に加えて、律令体制下で能登国が第一次の立国をしたのち、天平十三年（ 741）に越中国へと併合され、天平勝宝九年（ 757）に再び分立（第二次立国）するという経過のなかで、与木郷域内にも集落が成立し、存続していたことの積極的な傍証となっている。

また、邑知地溝帯を縦走する形で事業が進行している国道１５９号鹿島バイパス改築工事によって、本遺跡の北東方向（0.5～1.5㎞の範囲内）でも小金森ヘイナイメＢ遺跡、曽祢Ｃ遺跡、高畠カタタ・スギモト遺跡など古代の集落跡が石動山系の山麓沿いの緩斜面上で次々と確認・調査されており[3]、当時の官道に沿って展開した人々の営みが想定される。

こうした交通路沿いの集落分布状況に対して、本遺跡の北西約１㎞、邑知地溝帯の中央部に位置している大町Ｃ遺跡からは、平成三年（1992）の発掘調査[4]によって、「大町」と記された墨書土器[5]や横板井篭組の井戸などが確認されており、９世紀後半から１０世紀前半にかけて旧邑知潟に接した湖上交通の集落が存在したことは確実であろう。

羽咋郡の郡家と能登郡の郡家および能登国府を結ぶ官道（駅路）沿いで、旧邑知潟に面するとともに、両郡の接点にあたる本遺跡周辺は、古代の能登国や邑知地溝帯を考える上において注目される地域であり、考古資料と文献史料との一致が期待される地域といえる。

註

(1)　筆者が行った聞き取り調査によれば、土器以外の資料が出土したことも間違いのないところであるが、当時の出土資料はほとんど確認されていない。わずかに註２文献で紹介した四柳町在住の四飯弥一氏が本遺跡周辺で採集された「文(交?) 易」「田地」「田地八十」と記された墨書土器やその他の須恵器・土師器片が知られるにすぎない。

また、図２に掲載した支脚は、筆者が昭和62年（1987）に第３次調査区近くで表採したものであるが、現在でも周辺の水田は遺物の散布が認められる。

(2)　『四柳白山下遺跡Ⅰ・Ⅱ』1990.1991 羽咋市教育委員会

(3)　『社団法人 石川県埋蔵文化財保存協会年報２・３』 1991・1992 石川県埋蔵文化財保存協会

(4)　『拓影　石川県立埋蔵文化財センター所報 』 第３６号 1991 石川県立埋蔵文化財センター

(5)　現在の行政区画においても「大町」は本遺跡と接する山麓の駅路沿いから大町Ｃ遺跡が立地する邑知地溝帯中央部までの広がりがあり、「大町」という墨書文字が地名を表すと解すれば、文献史料である承久三年（1221）の『能登国田数注文』に記載されるのを初見とする遺跡周辺の地名を一挙に平安時代までさかのぼらせる可能性が強い。

参考文献

『羽咋市史』原始・古代編 1973 石川県羽咋市

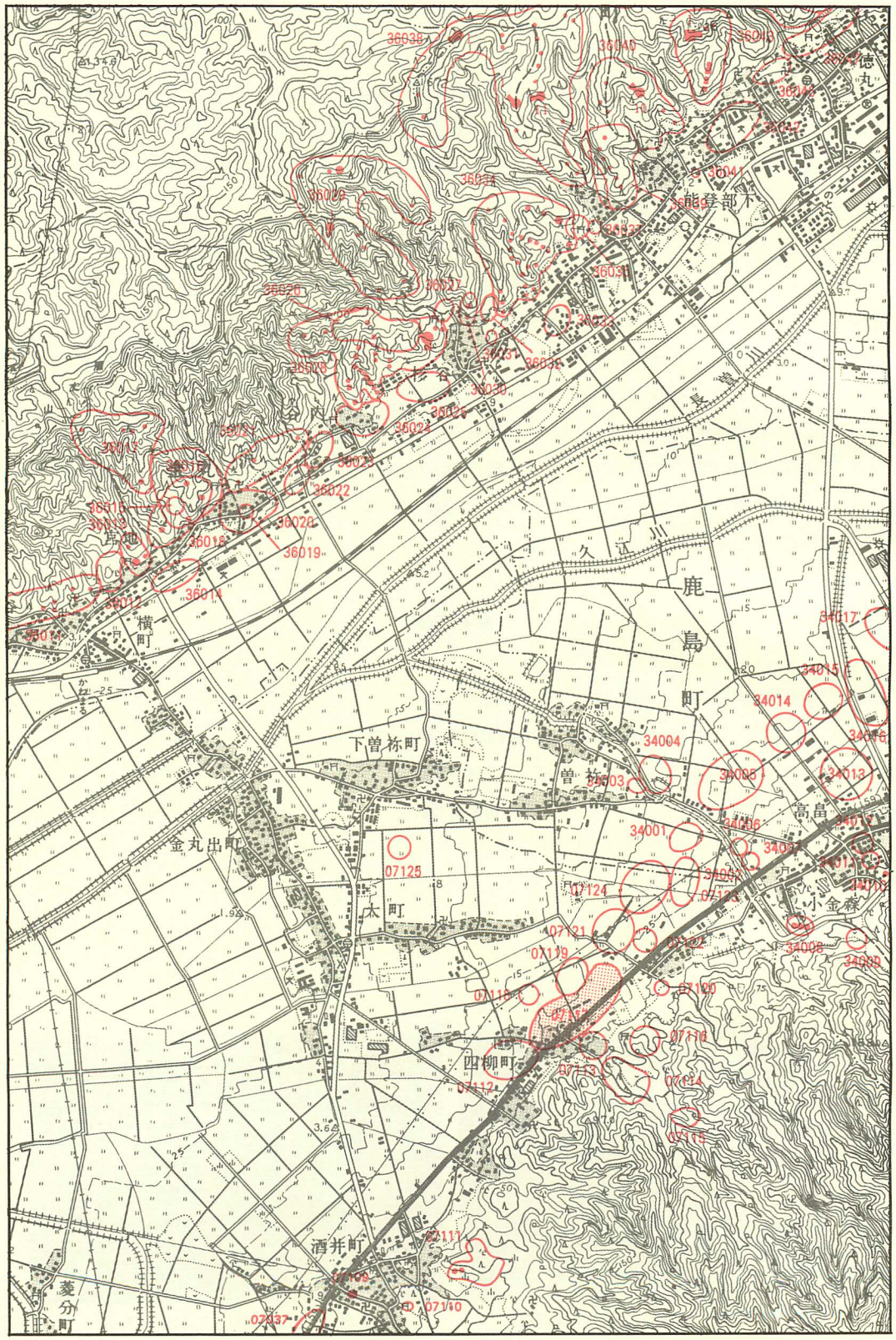
『鹿島町史』通史・民俗編 1985 石川県鹿島郡鹿島町

『古代日本の交通路Ⅳ』藤岡謙二郎編 1978 大明堂

『四柳白山下遺跡Ⅰ・Ⅱ』1990.1991 羽咋市教育委員会

掘り上がったSB01・02・03(第１次調査)

掘り上がったSB04・05・SD04(第２次調査)



第３図　四柳白山下遺跡と周辺の遺跡分布図(1/25,000)

第１表　周辺遺跡地名表１

遺跡番号	名　称	所 在 地	所在地通称	種 別	現 状	立 地	時 代	出 土 品	備　考	文 献
07037	酒井国道遺跡	羽咋市酒井町		散布地	田	丘陵裾	古墳	高坏脚３	道路工事中採集。	
07109	酒井古墳	羽咋市酒井町		古墳	宅地	丘陵裾	古墳	須恵器	円墳、横穴式石室。	62
07110	酒井中世墓群	羽咋市酒井町		墓	社地	丘陵裾	中世	五輪塔、板碑		
07111	酒井東古墳群	羽咋市酒井町		古墳	山林	丘陵	古墳		２基以上。	
07112	四柳やちだ遺跡	羽咋市四柳町		散布地	田	平地	古墳	壺、高坏、器台	1958年耕地整理時採集	
07113	四柳貝塚	羽咋市四柳町		貝塚	社地・畑・宅地	平地	縄文	土器、石匙１、石鏃３、磨製石斧、		765,768
07114	四柳中の堂遺跡	羽咋市四柳町		散布地	畑	丘陵	縄文・古墳	縄文土器、石器、土師器		765,768
07115	四柳中世墓群	羽咋市四柳町	オハカ	墓	山林	丘陵斜面	中世	板碑、五輪塔、四耳壺２		
07116	四柳横穴群	羽咋市四柳町		横穴墓	山林	丘陵斜面	古墳		７基よりなる。	
07117	四柳白山下遺跡	羽咋市四柳町	白山下	集落跡	田	平地	奈良・平安	土器（墨書土器を含む）、木器、円面硯、羽口	1990、91年市教委発掘調査。	1693,1772
07118	四柳宮の腰古銭遺跡	羽咋市四柳町	宮の腰	散布地	田	平地	中世	珠洲焼甕、宋・明銭36貫		
07119	四柳ミッコ遺跡	羽咋市四柳町	みっこ	散布地	田	平地	弥生・古墳			
07120	大町横穴群	羽咋市大町上野	オハカノ上	横穴墓	山林	丘陵斜面	古墳		２基以上よりなる。	
07121	大町ダイジングウ遺跡	羽咋市大町	大神宮	散布地	田	平地	中世			
07122	大町なった遺跡	羽咋市大町	なった	散布地	田	平地	不詳	長頸壺１	1978年、耕地整理時採集（詳細地点不明）。	
07123	小金森ヘイナイメＢ遺跡	羽咋市大町・鹿島町小金森		散布地	田	平地	奈良・平安		鹿島町小金森地内にまたがる。	
07124	大町ゴンジョウガリ遺跡	羽咋市大町	ゴンジョウガリ（五俵刈）	散布地	田	平地	古墳			
07125	大町Ｃ遺跡	羽咋市大町		集落跡	田	平地	平安	「大町」墨書土器他	1991年県埋文センター発掘調査。	
34001	小金森ヘイナイメＡ遺跡	鹿島町小金森	川久保	散布地	田	平地	縄文			
34002	小金森ヘイナイメＢ遺跡	鹿島町小金森・羽咋市大町	ヘイナイメ	散布地	田	平地	奈良・平安			
34003	曽祢大坪遺跡	鹿島町曽祢	大坪	散布地	田	平地	弥生	土器	1961年、耕地整理により発見。旧「曽祢遺跡（Ａ）」を改称。	
34004	曽顔堂田遺跡	鹿島町曽祢	道田の池	散布地	田	平地	弥生	壺、高坏、土器	1959年、耕地整理により発見。旧「曽祢弥生遺跡」を改称。	
34005	曽祢Ｃ遺跡	鹿島町曽祢		集落跡	田	平地	古墳	須恵器、土師器		
34006	小金森仏教遺跡	鹿島町小金森		散布地	田	台地末端	鎌倉	鏡	耕地整理により出土。	
34007	小金森宮田遺跡	鹿島町小金森	宮田	散布地	田	平地	古墳	平瓶、甕	耕地整理により発見。旧「曽祢遺跡（Ｂ）」を改称。	
34008	曽祢１号墳	鹿島町曽祢		古墳	宅地	台地端	古墳	双龍文環頭大刀、耳環、鉄斧、須恵器（坏蓋、台付長頸壺、鼎、壺	円墳、横穴式石室。1908年、山下家新築により発見。墳丘削平。	48,499,511 1177
	曽祢２号墳	鹿島町曽祢		古墳	宅地	台地端	古墳		円墳（径約7m高0.5m）横穴式石室。	
	曽祢３号墳	鹿島町曽祢		古墳	宅地	台地端	古墳		円墳（径約5m高1.5m）周辺が削平され、原形より小形化。	
34009	高畠ケカッチョ遺跡	鹿島町高畠	ケカッチョ	散布地	畑	谷頭	縄文	磨製石斧		
34010	高畠経塚古墳	鹿島町高畠		古墳	宅地	扇頂部	古墳	圭頭大刀２、銅鋺耳環、須恵器（坏高坏、鼎）	円墳（径10m）、横穴式石室。水口家新築の際発見、墳丘削平。	48,499,1177
34011	高畠稲荷社跡遺跡	鹿島町高畠		散布地	宅地・畑	扇頂部	古墳			
34012	高畠弥生遺跡	鹿島町高畠	キクヤ小路	散布地	宅地	扇頂部	弥生	壺		
34013	高畠遺跡	鹿島町高畠		散布地	田	扇頂部	古墳	坩、小形丸底坩、壺、高坏	1960年、耕地整理により発見。	501,608
34014	高畠カタタ・スギモト遺跡	鹿島町高畠・曽祢		集落跡	田	平地	古墳～中世	須恵器、土師器、白磁、青磁、珠洲焼、勾玉	掘立柱建物、竪穴状遺構、土坑。1990年県埋文保存協会発掘調査。	1769
34015	高畠カンジダ遺跡	鹿島町高畠		集落跡	田	平地	縄文・弥生中世	縄文土器、弥生土器、珠洲焼	掘立柱建物、土坑、溝1990年県埋文保存協会発掘調査。	1769

第１表　周辺遺跡地名表２

遺跡番号	名　称	所 在 地	所在地通称	種 別	現 状	立 地	時 代	出 土 品	備　考	文 献
34016	高畠テラダ遺跡	鹿島町藤井・高畠		集落跡	田	平地	奈良～中世	須恵器、土師器、珠洲焼	掘立柱建物、土坑、溝 1989年県埋文保存協会発掘調査。	1692
34017	藤井サンジョガリ遺跡	鹿島町福田・藤井	サンジョガリ	集落跡	田	平地	弥生	弥生土器、パン状炭化物	平地式住居跡、掘立柱建物。1989年県埋文保存協会発掘調査。	1692
36011	正部谷Ｂ古墳群	鹿西町金丸正部谷		古墳	山林	丘陵	古墳		円墳９基。	
36012	宿那彦神像石横遺跡	鹿西町金丸宮地	カナマリヅカ	散布地	山林・畑	丘陵端	中世	土師器		
36013	金丸宮地１号墳（鳥屋塚古墳）	鹿西町金丸宮地		古墳	庭園・竹藪	丘陵端	古墳		円墳(径8m、高1.6m)。横穴式石室(両袖式)。町指定史跡。	133
	金丸宮地２号墳	鹿西町金丸宮地		古墳	山林	丘陵	古墳		円墳、横穴式石室。	
	金丸宮地３号墳	鹿西町金丸宮地		古墳	山林	丘陵	古墳		円墳、横穴式石室。	
36014	金丸宮地遺跡	鹿西町金丸宮地		散布地	田	平地	古墳～奈良	須恵器（坏、長頸壺）、土師器（高坏、壺）		339,444
36015	仏性山天平寺跡	鹿西町金丸沢		寺院跡	畑	谷地	鎌倉			313
36016	金丸城跡	鹿西町金丸沢		城跡	山林	丘陵	鎌倉			313
36017	沢Ａ古墳群	鹿西町金丸沢		古墳	山林	丘陵	古墳		円墳５基。	
36018	沢Ｂ古墳群	鹿西町金丸沢		古墳	山林	丘陵	古墳		円墳３基、方墳１基。	
36019	専願寺跡	鹿西町金丸沢		寺院跡	畑	平地	鎌倉・室町			
36020	金丸地頭館跡	鹿西町金丸沢		館跡	宅地	平地	鎌倉			
36021	谷内古墳群	鹿西町金丸谷内		古墳	山林	丘陵	古墳		円墳３基。	
36022	沢遺跡	鹿西町金丸沢		散布地	田	山麓	奈良・平安	土師器、須恵器		
36023	谷内コショウジ遺跡	鹿西町金丸谷内	コショウジ	散布地	田	山麓	奈良・平安	土師器・須恵器		
36024	谷内ブンガヤチ遺跡	鹿西町金丸谷内	ブンガヤチ	集落跡	山林・宅地上水道施設	扇頂部	縄文～近世	土器、石器、陶磁器、木器、金属器	1985～89年、県埋文センター発掘調査。	
36025	金丸杉谷遺跡	鹿西町金丸杉谷		散布地	宅地・田	扇頂部	弥生～中世	土師器壺、須恵器坏、隆平永宝11、墨書土器、珠洲焼	1957年、耕地整理中発見。1989年、県埋文センター発掘調査。	448
36026	杉谷チャノバタケ遺跡	鹿西町金丸杉谷	チャノバタケ	集落跡	山林・上水道施設	丘陵	縄文～近世	土器、石器、チマキ状炭化米、木器須恵器、土師器	1987、88年県埋文センター発掘調査。弥生時代の環濠集落を含む。	1622
36027	金丸杉谷川遺跡	鹿西町金丸杉谷		散布地	畑	扇頂部	弥生	土器、石鏃	杉谷川より採集。	
36028	杉谷Ａ古墳群	鹿西町金丸杉谷		古墳	山林	丘陵	古墳	鉄鏃	前方後円墳１基（杉谷ガメ塚古墳、全長60m、葺石）,円墳13基、方墳８基。1986～88年県埋文センター発掘調査。	石考研会誌第35号1992
36029	杉谷Ｂ古墳群	鹿西町金丸杉谷		古墳	山林	丘陵	古墳		前方後方墳１基、円墳８基。	
36030	杉谷Ｃ古墳群	鹿西町金丸杉谷		古墳	山林	丘陵	古墳		円墳２基。	
36031	杉谷ヒガシ遺跡	鹿西町金丸杉谷	ヒガシ	散布地	田	丘陵端	不詳			
36032	杉谷遺跡	鹿西町金丸杉谷	コトミ・セチシンカイ	散布地	山林	丘陵端	不詳			
36033	杉谷ヤサカ遺跡	鹿西町金丸杉谷	ヤサカ	散布地	畑・宅地	丘陵端	不詳			
36034	能登部姫塚１～25号墳	鹿西町能登部下		古墳	山林	丘陵	古墳			
36035	能登部下遺跡	鹿西町能登部下		散布地	畑・社地	扇頂部	縄文～古墳	磨製石斧、椀形土器、壺		
36037	能登部上宮川遺跡	鹿西町能登部下		散布地	畑・社地	丘陵端	縄文	磨製石斧		
36038	天神１～18号墳	鹿西町能登部下		古墳	山林	丘陵	古墳			
36039	能登部城跡	鹿西町能登部下		城跡	山林	丘陵	鎌倉			
36040	薬師山・丸山１～12号墳	鹿西町能登部下		古墳	山林	丘陵	古墳			
36041	中大門庚申塚	鹿西町能登部下中大門		塚	荒地	平地	不詳			
36042	能登部小学校遺跡	鹿西町能登部下		散布地	校地	平地	縄文～古墳	縄文土器、弥生土器、土師器	1989、90年町教委発掘調査。	
36043	麿王山１～７号墳	鹿西町能登部下		古墳	山林	丘陵	古墳			1454
36046	上出遺跡	鹿西町能登部下上出		散布地	畑	丘陵麓	不詳			
36047	徳丸遺跡	鹿西町徳丸	観音山	散布地	畑	丘陵麓	縄文～中世	縄文土器、土師器須恵器、珠洲焼		

第２章　調査に至る経過と経緯

第１節　第３次調査に至る経緯

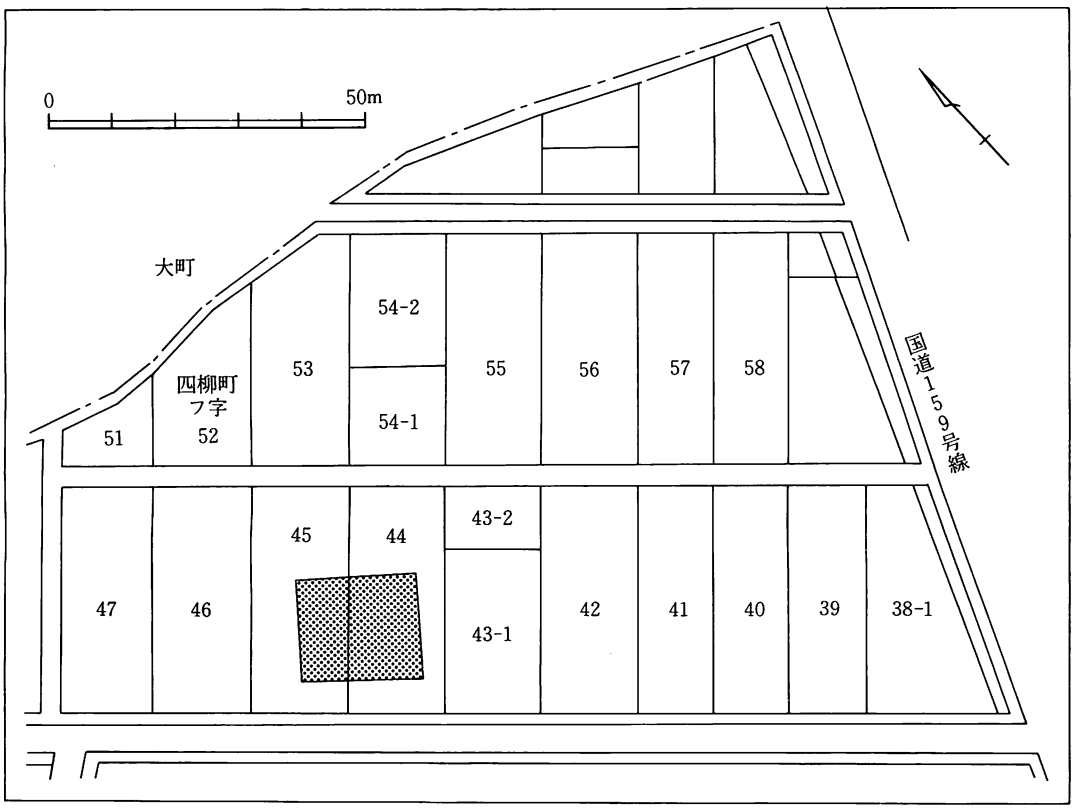
平成４年11月15日に、羽咋市四柳町つ字44・45番地の現況地目田に対して、個人住宅の建設を目的とした開発計画が羽咋市教育委員会（以下：市教委）に提出された。

これを受けた市教委では、この事業予定地が平成元年１月に確認された周知の遺跡（遺跡No. 07117 四柳白山下遺跡）の範囲内であることから、平成４年11月17日に調査対象区域（総面積1,056 ㎡）内において、バックホーを用いて３箇所（試掘面積合計約35㎡）のトレンチ（試掘坑）を設定する形で分布調査を実施した。その結果、すべてのトレンチ内において須恵器・土師器等の遺物が確認され、ただちに関連諸機関と発掘調査に関する協議を行った。

以上の経緯を経て、市教委が事業主体となり、文部省補助金を受けて本調査は実施された。調査期間は平成５年４月12日から５月25日までの24日間、調査面積は約 310㎡である。

近年、国道１５９号鹿島バイパス改築工事の進行によって、四柳白山下遺跡が存在する同バイパス予定地周辺での宅地等の開発が目立ち始めている。本調査の原因である開発もこうしたケースのひとつであり、通算でいえば第３次調査ということになる。

なお、調査区域・グリッド割等は第４図および第５図のとおりである。



第４図　第３次調査区位置図

第２節　調査の経過（日誌抄）

４月12日（月）小雨
本日より現地入り。調査区を設定し、バックホーによる表土除去作業を行う。
４月13日（火）晴一時雨
発掘用機材の搬入を行う。
４月14日（水）～21日（水）晴(内６日間)
調査区北東端において湧水が激しく排水用の溝を切り、茶褐色層を掘り下げていく。銭貨出土。
４月22日（木）雨のち曇り
遺構検出を行い、溝状遺構４条確認。
４月23日（金）曇り一時雨
茶褐色層の掘り下げと同時に、水準測量を行う。
４月26日（月）晴
調査区南側は撹乱が激しく、遺構確認できない。
４月27（火）･28日（水）曇り一時小雨
遺構検出作業と検出状況の写真撮影を行う。
４月30日（金）雨のち晴
溝状遺構の平面図作成。
５月６日（木）晴
溝状遺構を掘り下げ、写真撮影の後レベル記入。
５月７（金）･11日（火）曇り
灰茶褐色層及び淡青灰褐色細砂質層の掘り下げ。
５月12（水）･15日（土）晴のち曇り
灰茶褐色層を掘り下げ、Ｅ４区内において淡青灰褐色土をベース面とした遺構を検出。
５月17日（月）曇り
灰茶褐色層を掘り下げ、遺構を検出する。
５月18日（火）雨のち曇り
遺構を再確認し、平面図作成作業を行う。
５月19日（水）晴
検出遺構を掘り下げ、平面図の作成、レベル記入を行う。現地説明会を開催する（33名参加)。
５月20日（木）晴
遺構の半掘、平面図への追加、レベル記入などの作業を同時に進行する。柱穴内の柱根を確認。
５月21日（金）晴
遺構の完掘作業、平面図の作成、調査区の平板測量、調査区北・東側壁面の断面図取り等を行う。
５月24（月）･25日（水）晴
発掘用機材等の撤収を行い、バックホーによる調査区の埋戻し作業の完了をもって現地調査終了。

4／14　調査前の供養

5／17　遺構検出作業

5／19　現地説明会

5／25　埋戻し風景

第３章　第３次調査の概要

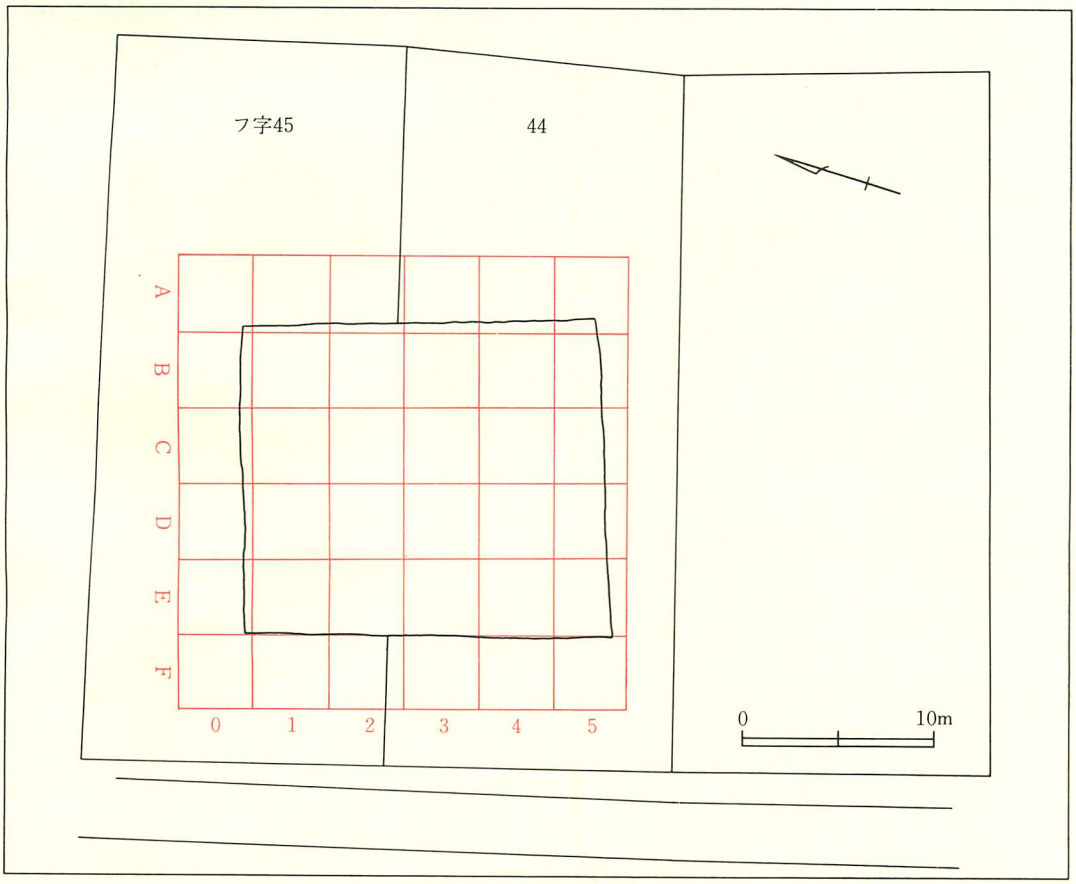
第１節　第３次調査区の設定

本遺跡の第３次調査は、開発計画（個人住宅建設）を受けて平成４年11月17日に行った分布調査の成果をもとにして、調査区域を設定する作業からはじまった。

分布調査対象区域内に設定した３つのトレンチ周辺が住宅建設予定地に該当しており、いずれも須恵器、土師器等を主とする遺物を検出したため、これらのトレンチ周辺を中心として約310㎡の発掘調査を実施することとした。

今回の発掘調査区の設定には、現況の土地利用に沿って４ｍ×４ｍ方眼のグリッドを任意に割り付けた。第５図に示したように、南北方向にアルファベットを、東西方向にアラビア数字を付して呼称している。この座標が交差する点の名称を交点の東北側のグリッド名とした。

なお、第１・２次調査でも、同様に４ｍ×４ｍのグリッドが設定されているが、遺跡内を通過するバイパス予定地内のセンター杭（№126・127）を基準に割り付けたものであり、相互に関連性はない。



第５図　第３次調査区グリッド割図

第２節　土層の概要

四柳白山下遺跡は邑知地溝帯の中央部南端、碁石ケ峰山地を開析して流れ出る地獄谷川などの小河川によって形成された小規模な扇状地の扇端部に立地している。そのため基盤は黄褐色系の砂質層であり、伏流水の湧き水が激しい所となっている。

第３次調査区の現況は標高１９ｍ前後を測る水田であるが、昭和２０年代に行われた耕地整理前の様子を「余喜村土地改良区第二工区現形図」に描かれた等高線によって見てみると、山地との境から東から西方向へと始まる比較的傾斜の急な水田地帯の一角に当たることが判読できる。また、第１・２次調査区とは直線距離で 300ｍ弱、その間に小規模な谷状の低地を挟んで位置していることになる。

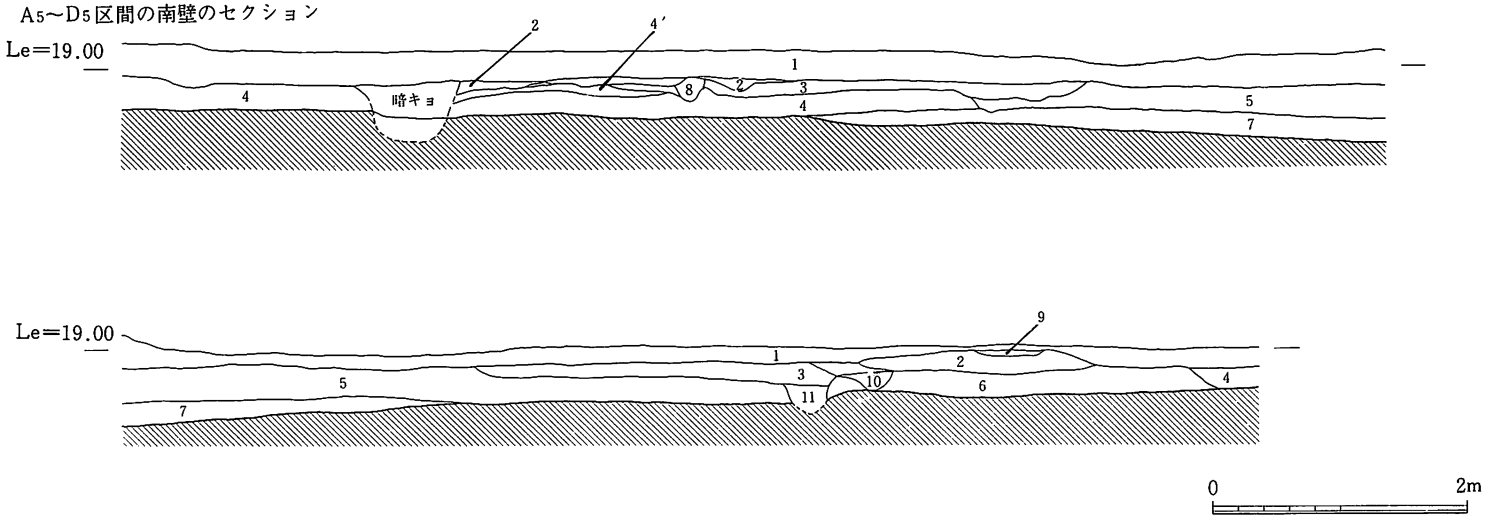
これまでの調査では、黄褐色系の基盤砂層までを掘り下げて遺構を検出してきたが、今回の調査では現地表面からそこに至る間が古代以降の土地利用によって大きく改変を受けており、奈良・平安時代の整地層である黒灰色系の砂質粘土層は調査区の南東端部分においてのみ認められた。よって、調査区の大半は幾度かの水田化の進行にともなって削られたり、盛土された土層であるが、土層中には二次的な移動による遺物を含んでいる。

調査区東端における基盤砂層までの平均的な層位を第６図の土層断面図でみると、現耕作土である茶褐色土（第１層）、淡青褐色細砂質土（第５層）、そしてその下に奈良・平安時代の整地層である黒灰色砂質粘土層（第７層）が堆積している。残存していた第７層は厚さ20㎝、標高18.6ｍ前後であり、全体的な堆積状況は確認できなかった。しかし、調査区の南東側農水路での断面露呈部には第７層と思われる堆積層が邑知地溝帯の南東山麓側から旧邑知潟側沖積地へ、東から西方向に向かって緩やかな傾斜面をなして層向している状況が観察できることから、調査区周辺においても同様の傾向であったと想定できよう。

遺構の大半はこの整地層から掘り込んでいるため、第１層をバックホーによって除去し、整地層上面である第５層以下を人力で掘り下げて遺構検出を行った。

しかし、先にも述べたように後世の開田のための撹乱層などが相まって、整地層での遺構検出は極めて判断がむずかしく、大部分は基盤砂層までを掘り下げて確認した。

A5～D5区間の南壁のセクション



第6図　調査区土層断面図(1/60)

第3表　土層分類表

第1層	茶褐色土(現耕作土)	第6層	濁灰褐色粘砂質土
第2層	黄褐色砂質土	第7層	淡黒灰褐色細砂質土
第3層	灰茶褐色砂質土	第8層	青灰色粘質土
第4層	黄灰色砂質土(礫含む)	第9層	黒褐色粘質土
第4′層	明黄灰色砂質土	第10層	淡黒灰褐色砂質土(覆土)
第5層	濁青灰褐色粘砂質土	第11層	第10層と同じ

第４章　遺構と遺物

第１節　遺構の概要

前章でも述べたように、第３次調査区の大半は開田の際の削平、盛土による堆積層であり、調査区南東端において奈良時代および中世以降の遺構を検出した。発見したおもな遺構には、畝状溝８条・柱穴・土坑・性格不明の遺構などがある。

これらの遺構のほとんどは、奈良時代の整地層である黒灰色砂質粘土層を掘り込んでいるが、中世以降とした畝状溝４条は、現耕作土直下にあたる黒褐色粘質土面での検出であった。

全体的には奈良時代を通して営まれた集落の一部を構成していたものと想定されるが、畝状溝ＳＵ０１～０４とその他の遺構は切り合っており、畝状溝のほうが新しい。

第２節　各　　説

（１）　柱穴および小穴　［Ｐ１～１０］

調査区南東端（Ｃ～Ｅ－３・４グリッド区間）に位置する小穴状遺構のなかに、柱根が残存する柱穴Ｐ２・３・４を確認している。限定された小規模な面積のため、掘立柱建物の一部に該当するのか否かは判断できないので、柱筋の通る南北３間（Ｐ１～９間）の柱列と東西２間（Ｐ９～10間）の柱列を抽出するにとどめておきたい。

南北柱間の寸法は北より150㎝、 155㎝、 180㎝、方位はＮ－21°－Ｗを測る。東西柱間は西より180㎝、 200㎝を測る。柱掘形は一辺40～50㎝の隅丸方形ないし不整形なものであり、Ｐ２・Ｐ３に残っていた柱直径はそれぞれ13.5㎝、18㎝を測る。

（２）　用途不明の遺構　［ＳＸ０１］

Ｄ３区北東端で認められた一辺 120㎝前後の不整形な掘り込み。検出面からの深さは10㎝と浅いが、淡灰褐色細砂質土を基本として、灰褐色系粘土や熱を受け変色した粘土面および炭化物・木炭を多く含んでおり、さらに加熱された円礫（第16図 186）や鞴の羽口片、小鉱滓などの遺物が出土していることから、鋳造・小鍛冶などに関連した遺構としてとらえておきたい。

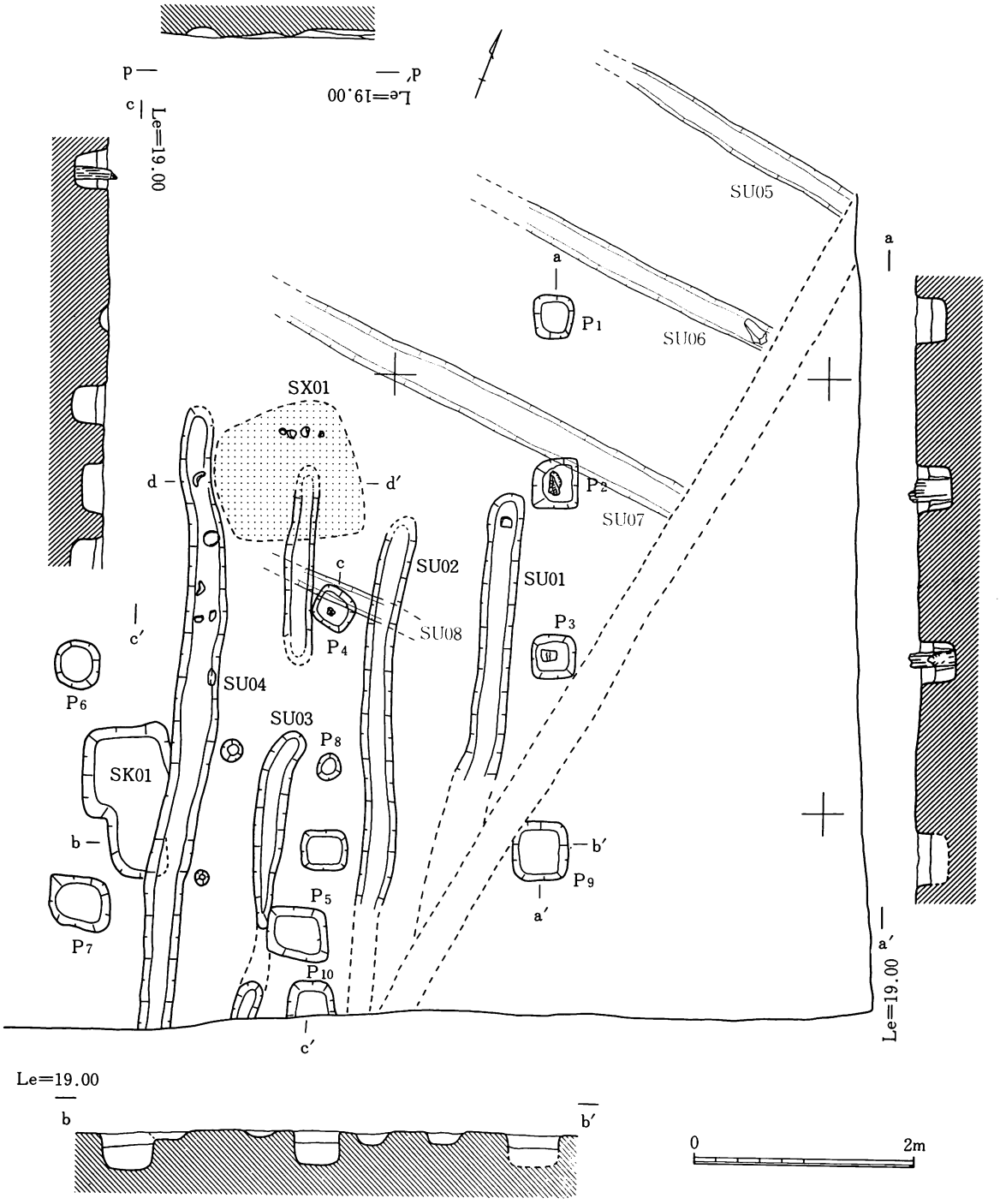
（３）　畝状溝

ＳＵ０１～０４

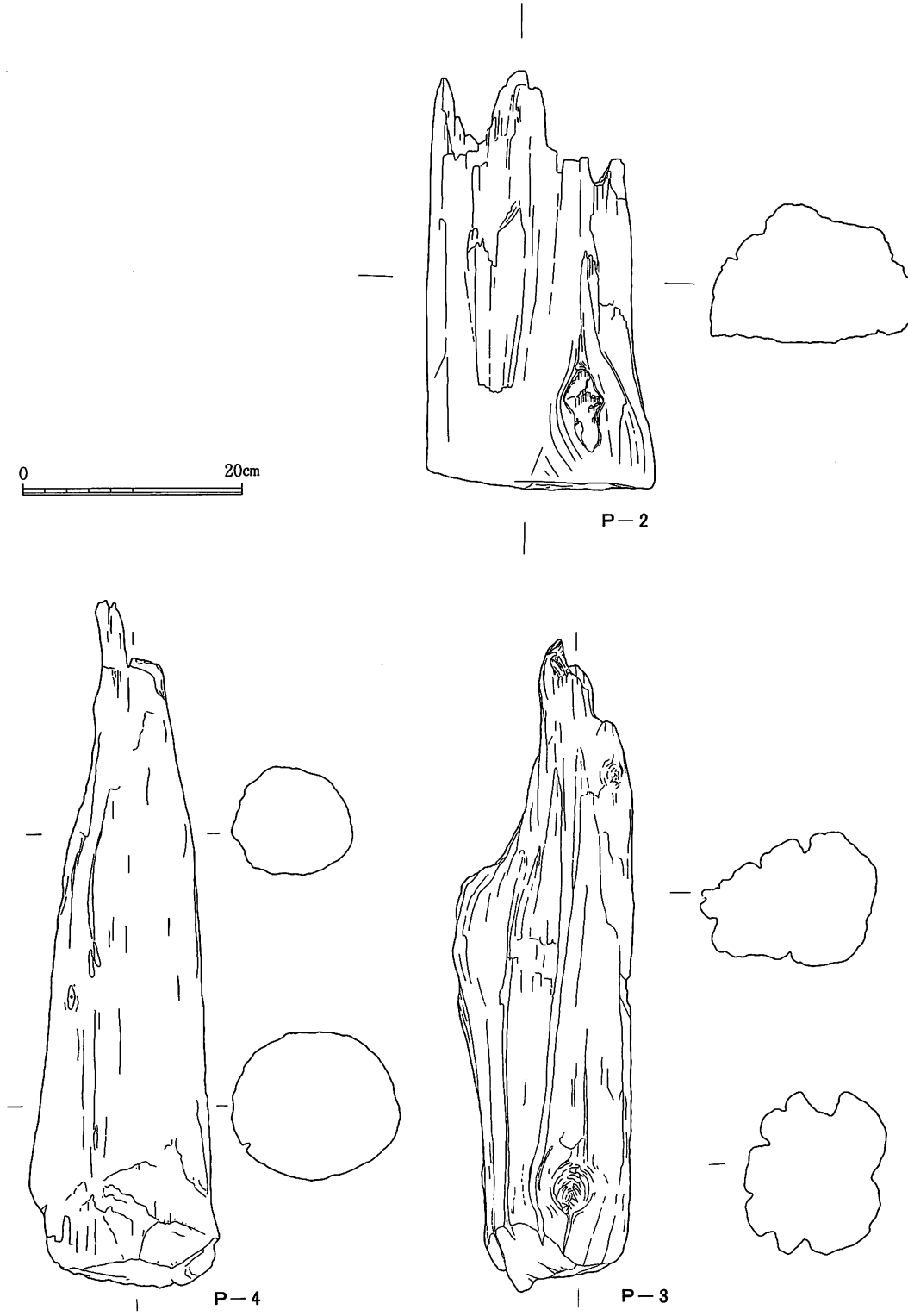
調査区南東端で検出した南北方向に走る畝状の溝で、いずれも奈良時代の包含層（第７層）の上面に掘り込まれており、今回の調査で確認できた古代の最も新しい遺構といえる。溝幅は20～40㎝、深さは10㎝、畝幅（溝間距離）が0.5～0.8ｍ、方位はＮ－19°－Ｗ前後でまとまっている。検出した長さはＳＵ０４の 5.7ｍが最長であり、南側は調査区外のために未検出。

ＳＵ０５～０８

古代の畝状溝と同様調査区南東端に位置しているが、表土直下での検出であり中世以降の遺構とした。深さは20～35㎝前後が平均的で、畝幅（溝間距離）が1.3～1.8ｍ前後、方位はＮ－86°－Ｗ前後であり、前述ＳＵ０１～０４と異なりほぼ東西方位を示している。



第7図　調査区遺構平面図(1/60)



第8図　柱根実測図(1/4)

第５章　出土遺物

今回の調査で検出した遺物には、須恵器・土師器・石製品・製塩・生産関係の遺物などがある。これらの大半が奈良時代のものであるため、ここでは畝状の溝（ＳＵ）および包含層出土遺物の説明を中心に記述を進め、総括的な評価は第６章のまとめで行うことにしたい。また、説明の都合上、同じ器種での分類は『四柳白山下遺跡Ｉ』で抽出した分類に準じている。

第１節　古代の遺物

(1)　須恵器

坏蓋（第9図）

総点数で34点以上が出土しており、次に述べる有台坏と１器種としての点数が揃っている。

第５表に示したように、口径11～12㎝台と14㎝および15㎝台にまとまった分布状況が認められるが、17㎝台にも一定量の存在が予想される。このなかで器形の知られる資料の相関を示しているのが第４表である。この表からは先の口径分布での11～12㎝台のものが内面返りをもち、擬宝珠形のつまみがつく坏蓋Ａ類、口径14㎝台にはボタン形のつまみも体部も偏平な坏蓋Ｃ類、口径15㎝台に天井部からなだらかに口縁端部に移行する笠形の坏蓋Ｂ類の存在が確認できる。

また、出土資料の天井部はすべて回転ヘラ削りが施されており、口縁端部の形態は断面が三角形を呈するタイプ、端部を外方につまみ出すタイプが主流で、内面返り、巻込、折曲、丸といった形態も一定量認められる。断面三角形のものには既往の調査で特徴的であったＢ１類の出土量は少ない。

有台坏（第9･10図）

総点数で35点以上が出土しており、須恵器のなかに占める比率は34％と食膳具のなかでは最も量が多い。 第6～10表に示したように、口径11～14㎝の間に有台坏Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｈ類といった形態的特徴をもった資料が確認できるが、圧倒的な量比をもつものはない。

また、全形を知ることはできなかったが、底部片の資料から口径14～15㎝台で高径指数25、底径指数75前後と偏平な器形の量比がさらに増えることが予想される。

無台坏（第11図）

個体数28点以上と食膳具では有台坏に次ぐ量を占めている。そのなかでも口径11～12㎝台に量的なピークがあり、形態的には高径指数30前後で底部から体部が丸みをもって立ち上がる無台坏Ｃ類とＤ類の一部が主体となっている。また、高径指数25と口径と底径との差が他の器形と比して小さく、偏平なＥ類も一定量認められる。

高坏（第13図125）

坏部から脚部までを復元できるものは出土していない。 125は脚基部から反りながら水平方向に開いた脚端部に、やや下方につまみ出した端面をつくる無蓋高坏になると思われる。

壷・瓶類（第11図105･106･第12図107～109･第13図123～128）

第4表　須恵器坏蓋・相関散布図(口径・器高)

```
                    横軸＝口径
                    縦軸＝器高
   以　上 / 未　満   -3        -2        -1         0         1         2         3
 4.2032800 ..............................................................................3
 4.0802000/ 4.2032800 .         .         .         .         .         .         .
 3.9571300/ 4.0802000 .         .         .         .         .         .         .
 3.8340500/ 3.9571300 .         .         .         .         .         .         .
 3.7109800/ 3.8340500 .         .         .         .         .         .         .
 3.5879000/ 3.7109800 ..............................................................................2
 3.4648200/ 3.5879000 .         .         .         .         .         .         .
 3.3417500/ 3.4648200 .         .         .         .         .         .         .
 3.2186700/ 3.3417500 .         .         .         .         .         .         .
 3.0956000/ 3.2186700 .         .         .         .         .         .         .
 2.9725200/ 3.0956000 .         .         *         .         .         *         .
 2.8494500/ 2.9725200 .         .         .         *         .         .         .
 2.7263700/ 2.8494500 .         .         .         .         .         .         .
 2.6032900/ 2.7263700 .         .         .         .         .         .         .
 2.4802200/ 2.6032900 .         .         .         .         .         .         .
 2.3571400/ 2.4802200 .         .         *         .         .         .         .
 2.2340700/ 2.3571400 .         .         .         .         .         .         .
 2.1109900/ 2.2340700 .         .         .         .         .         .         .
 1.9879200/ 2.1109900 .         .         .         .         .         .         .
 1.8648400/ 1.9879200 .         .         .         .         *         .         .
 1.7417600/ 1.8648400 ..............................................................*...............-1
 1.6186900/ 1.7417600 .         .         .         .         .         .         .
 1.4956100/ 1.6186900 .         .         .         .         *         .         .
 1.3725400/ 1.4956100 .         .         .         .         .         .         .
 1.2494600/ 1.3725400 .         .         .         .         .         .         .
 1.1263900/ 1.2494600 ..............................................................................-2
 1.0033100/ 1.1263900 .         .         .         .         .         .         .
 0.8802350/ 1.0033100 .         .         .         .         .         .         .
 0.7571590/ 0.8802350 .         .         .         .         .         .         .
 0.6340840/ 0.7571590 .         .         .         .         .         .         .
            0.5110080 ..............................................................................-3
                      10.813400 11.794600 12.775900 13.757100 14.738400 15.719600 16.700900
```

		平均値	標準偏差
横軸の変数の名前 ＝ 口径		13.75710	0.98125
縦軸の変数の名前 ＝ 器高		2.35714	0.61538
データの数	＝7		
相関係数	＝-0.291		

第5表　須恵器坏蓋・口径分布表

```
                    変数の番号 ＝ 1        データの数 ＝ 29
                    変数の名前 ＝ .... 口径

   以　上　/　未　満      (SS) 0         10         20         30 度数
                 10.038100      :         .         .         .  0
 10.038100/ 10.480500  -4.00:         .         .         .  0
 10.480500/ 10.922900  -2.70:         .         .         .  0
 10.922900/ 11.365300  -2.40:*        .         .         .  1
 11.365300/ 11.807700  -2.10:*        .         .         .  1
 11.807700/ 12.250100  -1.80:*        .         .         .  1
 12.250100/ 12.692500  -1.50:*        .         .         .  1
 12.692500/ 13.134900  -1.20:**       .         .         .  2
 13.134900/ 13.577300  -0.90:         .         .         .  0
 13.577300/ 14.019700  -0.60:****     .         .         .  4
 14.019700/ 14.462100  -0.30:****     .         .         .  4
 14.462100/ 14.904500   0.00:****     .         .         .  4
 14.904500/ 15.346900   0.30:**        .         .         .  2
 15.346900/ 15.789300   0.60:***       .         .         .  3
 15.789300/ 16.231600   0.90:****      .         .         .  4
 16.231600/ 16.674000   1.20:*         .         .         .  1
 16.674000/ 17.116400   1.50:          .         .         .  0
 17.116400/ 17.558800   1.80:*         .         .         .  1
 17.558800/ 18.001200   2.10:          .         .         .  0
 18.001200/ 18.443600   2.40:          .         .         .  0
 18.443600/ 18.886000   2.70:          .         .         .  0
 18.886000              3.00:          .         .         .  0
```

第6表　須恵器有台坏・相関散布図(口径・器高)

```
                    横軸＝口径
                    縦軸＝器高
   以　上 / 未　満   -3        -2        -1         0         1         2         3
 6.2968400 ..............................................................................3
 6.1557100/ 6.2968400 .         .         .         .         .         .         .
 6.0145900/ 6.1557100 .         .         .         .         .         .         .
 5.8734700/ 6.0145900 .         .         .         .         .         .         .
 5.7323500/ 5.8734700 .         .         .         .         .         .         .
 5.5912300/ 5.7323500 ..............................................................*...........2
 5.4501000/ 5.5912300 .         .         .         .         .         .         .
 5.3089800/ 5.4501000 .         .         .         .         .         .         .
 5.1678600/ 5.3089800 .         .         .         .         .         .         .
 5.0267400/ 5.1678600 .         .         .         .         .         .         .
 4.8856100/ 5.0267400 .         *         .         .         .         .         .
 4.7444900/ 4.8856100 .         .         .         .         .         .         .
 4.6033700/ 4.7444900 .         .         .         .         .         .         .
 4.4622500/ 4.6033700 .         .         .         .         .         .         .
 4.3211200/ 4.4622500 .         .         *         .         .         .         .
 4.1800000/ 4.3211200 .         .         .         *         .         *         .
 4.0388800/ 4.1800000 .         .         .         .         .         .         .
 3.8977600/ 4.0388800 .         .         .         .         .         .         .
 3.7566300/ 3.8977600 .         .         *         .         *         .         .
 3.6155100/ 3.7566300 .         .         .         *         .         .         .
 3.4743900/ 3.6155100 ..............................*...........................................-1
 3.3332700/ 3.4743900 .         .         .         *         .         .         .
 3.1921400/ 3.3332700 .         .         .         .         .         .         .
 3.0510200/ 3.1921400 .         .         .         .         .         .         .
 2.9099000/ 3.0510200 .         .         .         .         .         .         .
 2.7687800/ 2.9099000 ..............................................................................-2
 2.6276500/ 2.7687800 .         .         .         .         .         .         .
 2.4865300/ 2.6276500 .         .         .         .         .         .         .
 2.3454100/ 2.4865300 .         .         .         .         .         .         .
 2.2042900/ 2.3454100 .         .         .         .         .         .         .
            2.0631600 ..............................................................................-3
                      9.552040 10.608000 11.664000 12.720000 13.776000 14.832000 15.888000
```

		平均値	標準偏差
横軸の変数の名前 ＝ 口径		12.72000	1.05599
縦軸の変数の名前 ＝ 器高		4.18000	0.70561
データの数	＝10		
相関係数	＝0.318		

第7表　須恵器有台坏・口径分布表

```
                    変数の番号 ＝ 1        データの数 ＝ 10
                    変数の名前 ＝ .... 口径

   以　上　/　未　満      (SS) 0         10         20         30 度数
                  9.552040      :         .         .         .  0
  9.552040/  9.868830  -3.00:         .         .         .  0
  9.868830/ 10.185600  -2.70:         .         .         .  0
 10.185600/ 10.502400  -2.40:         .         .         .  0
 10.502400/ 10.819200  -2.10:         .         .         .  0
 10.819200/ 11.136000  -1.80:         .         .         .  0
 11.136000/ 11.452800  -1.50:*        .         .         .  1
 11.452800/ 11.769600  -1.20:         .         .         .  0
 11.769600/ 12.086400  -0.90:***      .         .         .  3
 12.086400/ 12.403200  -0.60:         .         .         .  0
 12.403200/ 12.720000  -0.30:*        .         .         .  1
 12.720000/ 13.036800   0.00:**       .         .         .  2
 13.036800/ 13.353600   0.30:          .         .         .  0
 13.353600/ 13.670400   0.60:**        .         .         .  2
 13.670400/ 13.987200   0.90:          .         .         .  0
 13.987200/ 14.304000   1.20:          .         .         .  0
 14.304000/ 14.620800   1.50:          .         .         .  0
 14.620800/ 14.937600   1.80:*         .         .         .  1
 14.937600/ 15.254400   2.10:          .         .         .  0
 15.254400/ 15.571200   2.40:          .         .         .  0
 15.571200/ 15.888000   2.70:          .         .         .  0
 15.888000              3.00:          .         .         .  0
```

第8表　須恵器有台坏・相関散布図(口径・台径)

```
                    横軸＝口径
                    縦軸＝台径
   以　上 / 未　満   -3        -2        -1         0         1         2         3
10.762600 ..............................................................................3
10.582400/ 10.762600 .         .         .         .         .         .         .
10.402200/ 10.582400 .         .         .         .         .         .         .
10.222100/ 10.402200 .         .         .         .         .         .         .
10.041900/ 10.222100 .         .         .         .         .         .         .
 9.861730/ 10.041900 ..............................................................................2
 9.681550/  9.861730 .         .         .         .         .         .         .
 9.501380/  9.681550 .         .         .         .         .         .         .
 9.321210/  9.501380 .         .         .         *         .         .         .
 9.141040/  9.321210 .         .         .         .         .         .         .
 8.960860/  9.141040 ..............................*...........................................1
 8.780690/  8.960860 .         .         .         .         *         .         .
 8.600520/  8.780690 .         .         .         *         .         .         .
 8.420350/  8.600520 .         .         .         .         .         .         .
 8.240170/  8.420350 .         .         .         .         .         .         .
 8.060000/  8.240170 ..............................................................................0
 7.879830/  8.060000 .         .         *         .         .         .         .
 7.699650/  7.879830 .         .         .         .         *         .         *
 7.519480/  7.699650 .         .         *         .         .         .         .
 7.339310/  7.519480 .         .         .         .         .         .         .
 7.159140/  7.339310 ..............................................................................-1
 6.978960/  7.159140 .         .         *         .         .         .         .
 6.798790/  6.978960 .         .         .         .         .         .         .
 6.618620/  6.798790 .         .         .         .         .         .         .
 6.438440/  6.618620 .         *         .         .         .         .         .
 6.258270/  6.438440 ..............................................................................-2
 6.078100/  6.258270 .         .         .         .         .         .         .
 5.897930/  6.078100 .         .         .         .         .         .         .
 5.717750/  5.897930 .         .         .         .         .         .         .
 5.537580/  5.717750 .         .         .         .         .         .         .
            5.357410 ..............................................................................-3
                      9.552040 10.608000 11.664000 12.720000 13.776000 14.832000 15.888000
```

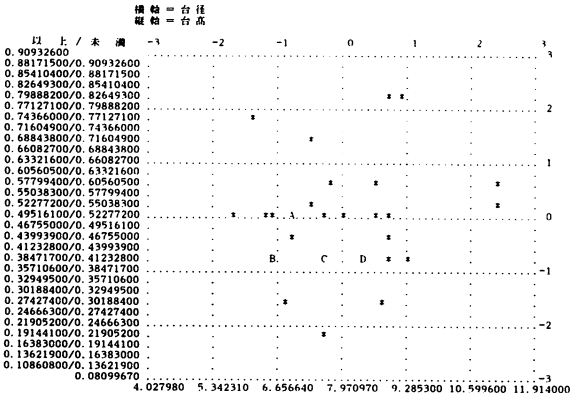
		平均値	標準偏差
横軸の変数の名前 ＝ 口径		12.72000	1.05599
縦軸の変数の名前 ＝ 台径		8.06000	0.90086
データの数	＝10		
相関係数	＝0.405		

第9表　須恵器有台坏・体部外傾度分布表

```
                    変数の番号 ＝ 4        データの数 ＝ 10
                    変数の名前 ＝ .... 角度

   以　上　/　未　満      (SS) 0         10         20         30 度数
                 53.529200      :         .         .         .  0
 53.529200/ 54.916300  -3.00:         .         .         .  0
 54.916300/ 56.303300  -2.70:         .         .         .  0
 56.303300/ 57.690400  -2.40:         .         .         .  0
 57.690400/ 59.077500  -2.10:*        .         .         .  1
 59.077500/ 60.464600  -1.80:         .         .         .  0
 60.464600/ 61.851700  -1.50:         .         .         .  0
 61.851700/ 63.238800  -1.20:         .         .         .  0
 63.238800/ 64.625800  -0.90:*        .         .         .  1
 64.625800/ 66.012900  -0.60:**       .         .         .  2
 66.012900/ 67.400000  -0.30:*        .         .         .  1
 67.400000/ 68.787100   0.00:*        .         .         .  1
 68.787100/ 70.174200   0.30:**       .         .         .  2
 70.174200/ 71.561200   0.60:          .         .         .  0
 71.561300/ 72.948300   0.90:          .         .         .  0
 72.948300/ 74.335400   1.20:**       .         .         .  2
 74.335400/ 75.722500   1.50:          .         .         .  0
 75.722500/ 77.109600   1.80:          .         .         .  0
 77.109600/ 78.496700   2.10:          .         .         .  0
 78.496700/ 79.883700   2.40:          .         .         .  0
 79.883800/ 81.270800   2.70:          .         .         .  0
 81.270800              3.00:          .         .         .  0
```

第10表　須恵器有台坏・相関散布図(台径・台高)



	平均値	標準偏差
横軸の変数の名前＝台径	7.97097	1.31433
縦軸の変数の名前＝器高	0.49516	0.13806

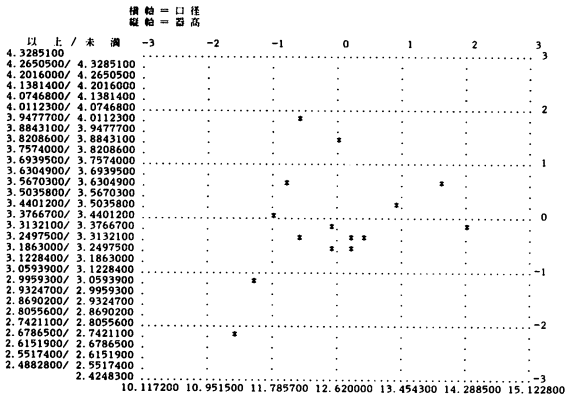
データの数　＝ 31
相関係数　＝ 0.147

第11表　須恵器無台坏・口径分布表

変数の番号 ＝ 1　　データの数 ＝ 15
変数の名前 ＝ ....口径

以上	未満	(SS) 0 10 20 30	度数
	10.117200	:	0
10.117200/	10.367500	-3.00:	0
10.367500/	10.617800	-2.70:	0
10.617800/	10.868000	-2.40:	0
10.868000/	11.118300	-2.10:	0
11.118300/	11.368600	-1.80:*	1
11.368600/	11.618900	-1.50:*	1
11.618900/	11.869200	-1.20:*	1
11.869200/	12.119400	-0.90:*	1
12.119400/	12.369700	-0.60:**	2
12.369700/	12.620000	-0.30:**	2
12.620000/	12.870300	0.00:***	3
12.870300/	13.120600	0.30:*	1
13.120600/	13.370800	0.60:	0
13.370800/	13.621100	0.90:*	1
13.621100/	13.871400	1.20:	0
13.871400/	14.121700	1.50:*	1
14.121700/	14.372000	1.80:*	1
14.372000/	14.622200	2.10:	0
14.622200/	14.872500	2.40:	0
14.872500/	15.122800	2.70:	0
15.122800		3.00:	0

第12表　須恵器無台坏・相関散布図(口径・器高)



	平均値	標準偏差
横軸の変数の名前＝口径	12.62000	0.83427
縦軸の変数の名前＝器高	3.37667	0.31728

データの数　＝ 15
相関係数　＝ 0.328

第13表　須恵器無台坏・体部外傾度分布表

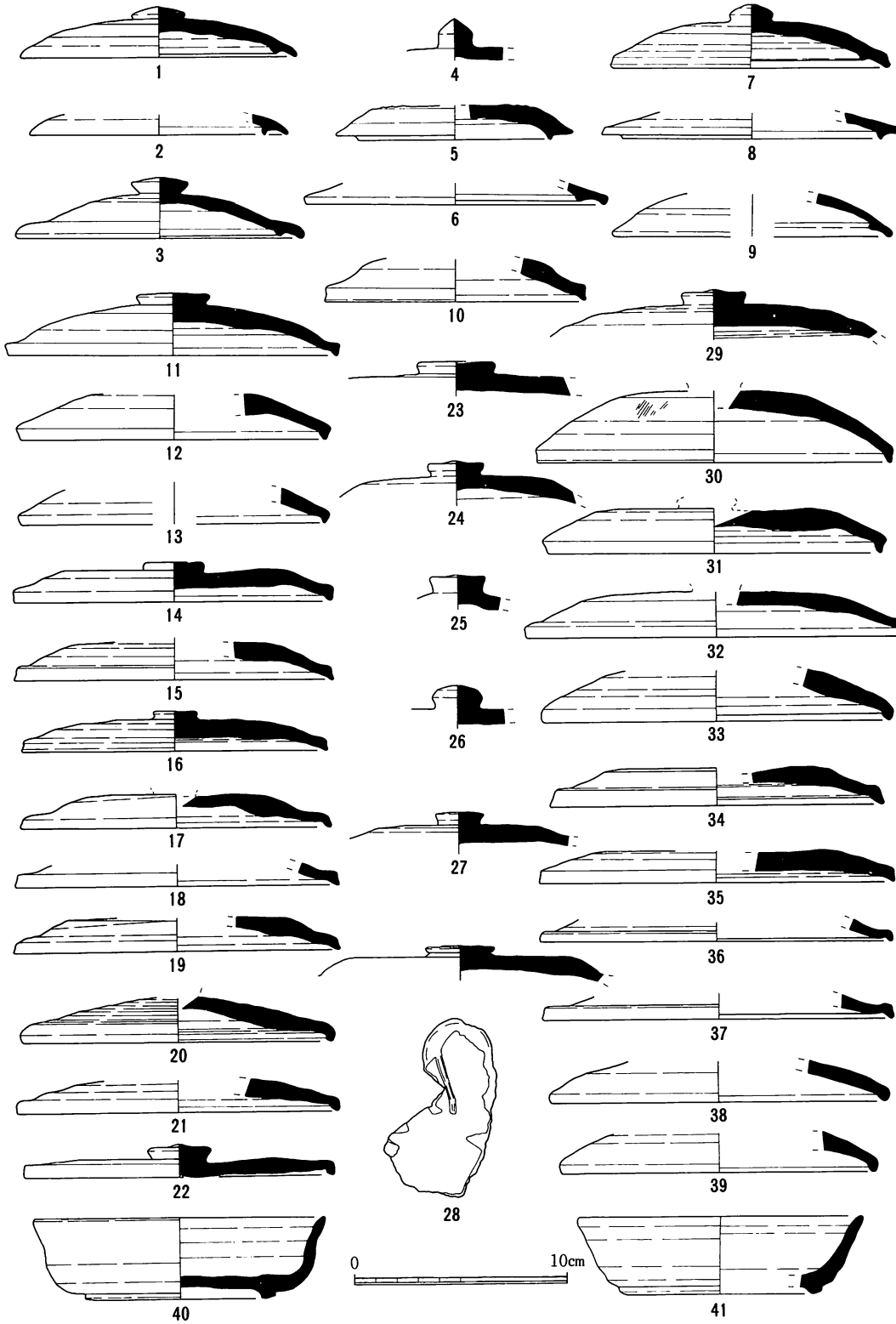
変数の番号 ＝ 3　　データの数 ＝ 15
変数の名前 ＝ ....角度

以上	未満	(SS) 0 10 20 30	度数
	52.706300	:	0
52.706300/	53.799000	-3.00:	0
53.799000/	54.891700	-2.70:	0
54.891700/	55.984400	-2.40:	0
55.984400/	57.077100	-2.10:	0
57.077100/	58.169800	-1.80:**	2
58.169800/	59.262500	-1.50:	0
59.262500/	60.355200	-1.20:	0
60.355200/	61.447900	-0.90:**	2
61.447900/	62.540600	-0.60:***	3
62.540600/	63.633300	-0.30:	0
63.633300/	64.726000	0.00:***	3
64.726000/	65.818700	0.30:	0
65.818700/	66.911400	0.60:*	1
66.911400/	68.004100	0.90:***	3
68.004100/	69.096800	1.20:	0
69.096900/	70.189600	1.50:	0
70.189600/	71.282300	1.80:*	1
71.282300/	72.375000	2.10:	0
72.375000/	73.467700	2.40:	0
73.467700/	74.560400	2.70:	0
74.560400		3.00:	0

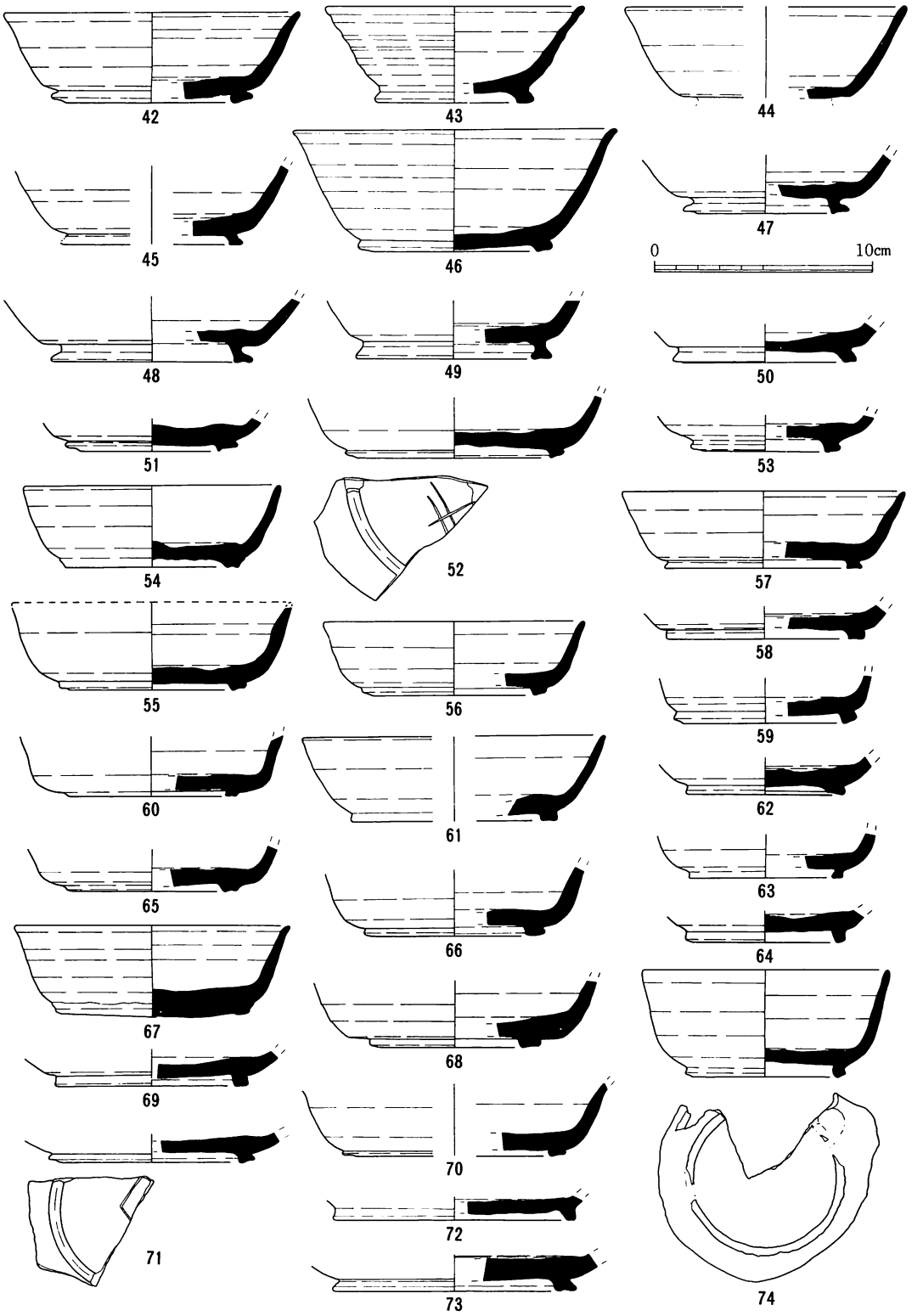
第14表　土師器甕・口径分布表

変数の番号 ＝ 1　　データの数 ＝ 15
変数の名前 ＝ ....口径

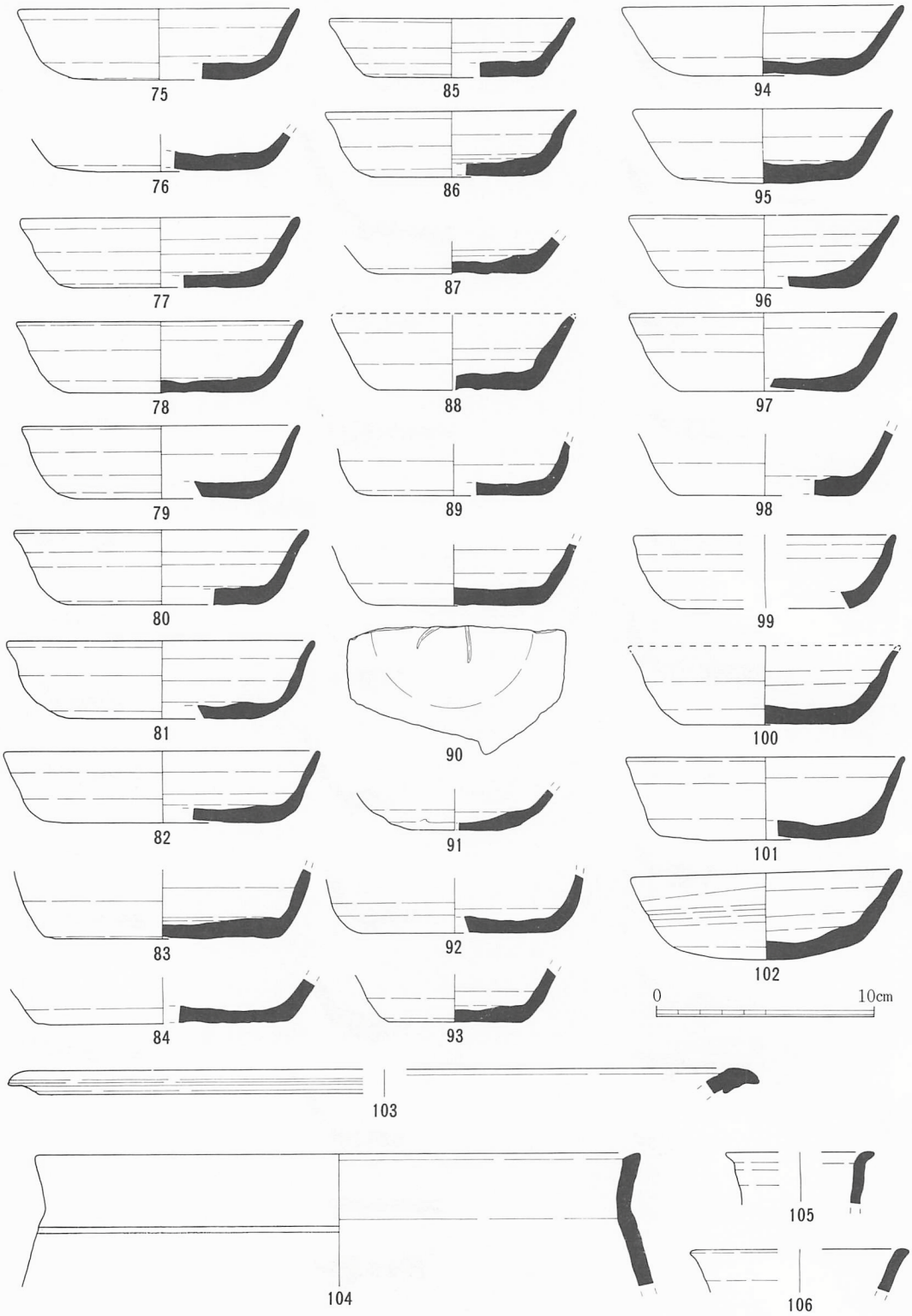
以上	未満	(SS) 0 10 20 30	度数
	4.935340	:	0
4.935340/	6.297140	-3.00:	0
6.297140/	7.658940	-2.70:	0
7.658940/	9.020740	-2.40:	0
9.020740/	10.382500	-2.10:*	1
10.382500/	11.744300	-1.80:	0
11.744300/	13.106100	-1.50:**	2
13.106100/	14.467900	-1.20:*	1
14.467900/	15.829700	-0.90:	0
15.829700/	17.191500	-0.60:	0
17.191500/	18.553300	-0.30:*	1
18.553300/	19.915100	0.00:**	2
19.915100/	21.276900	0.30:*****	5
21.276900/	22.638700	0.60:	0
22.638700/	24.000500	0.90:**	2
24.000500/	25.362300	1.20:*	1
25.362300/	26.724100	1.50:	0
26.724100/	28.085900	1.80:	0
28.085900/	29.447700	2.10:	0
29.447700/	30.809500	2.40:	0
30.809500/	32.171300	2.70:	0
32.171300		3.00:	0



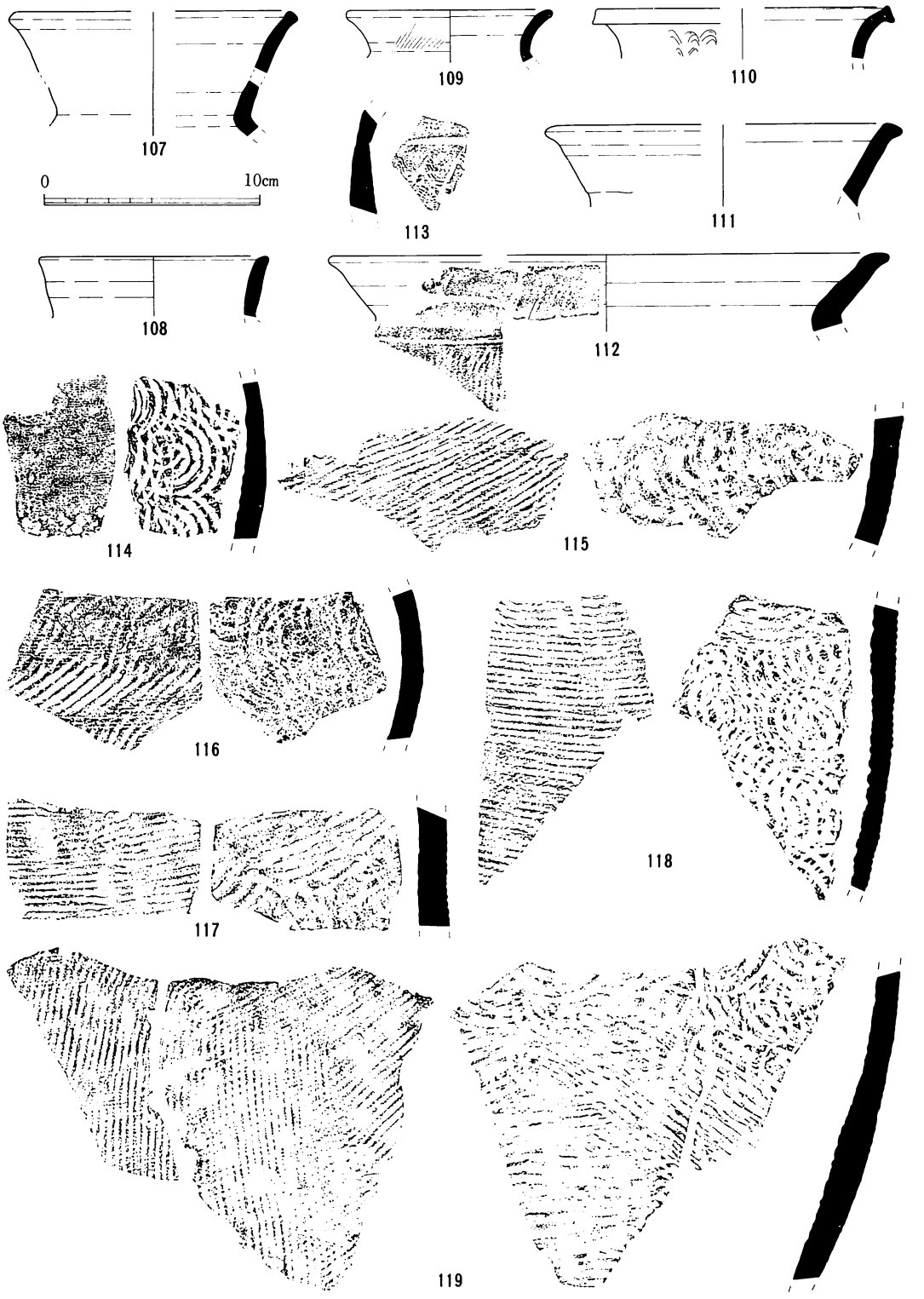
第9図　須恵器実測図1（1/3）



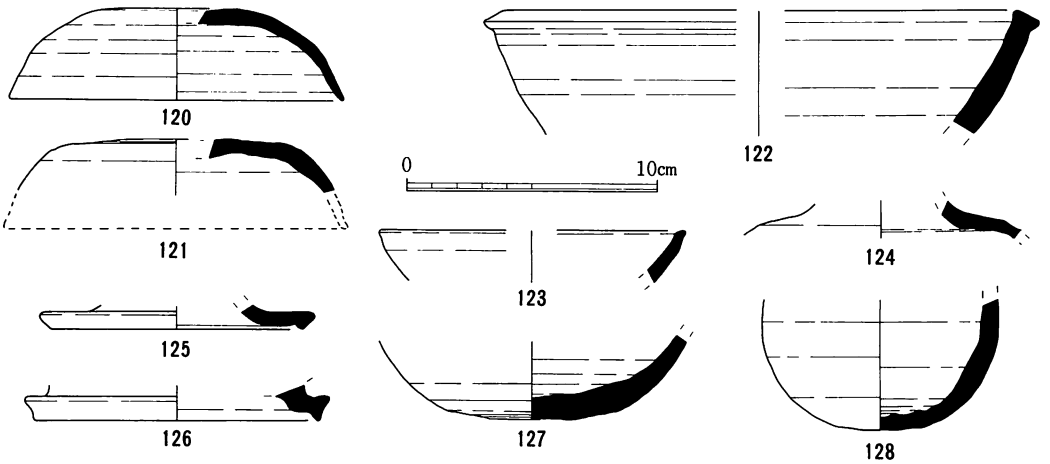
第10図　須恵器実測図２(1/3)



第11図　須恵器実測図３(1/3)



第12図　須恵器実測図４(1/3)



第13図　須恵器実測図５

いずれも局部的な破片が多い。108は口径10.6cmを測る横瓶の口縁部片になると思われるが、他の壷類の口縁部片も含めて体部へと続く資料はない。126 はいわゆる長頸壷に付される高台片で、高台径11.2cmを測ることから、口径13cm、体部最大径17cm前後で肩部及び口頸部に数条の沈線をめぐらす器形が予想される。127・128は高台の付かない体部下半の資料で、いずれも外面にはヘラ削りが施される。

甕　(第11図103・104・第12図110～113)

調査区出土の甕で図化できたものは口縁部片がほとんどで、口径26～28cm台の資料に口縁部が外傾しながら面をとるもの（112 ）と口縁部が直立気味に立ち上がるもの（104 ）を確認している。調整はすべて口縁部内外面にナデ、体部外面に平行叩き、内面にも叩き調整による同心円文を施す。また、酸化硬質焼成によって暗赤褐色を呈し、叩き目が口縁部外面にまで及んでいる437と酸化軟質焼成によって淡灰褐色の 104はカキ目で叩き目を消去している。

その他（第12図114～119・第13図120～122）

120は降灰の天井部外面にヘラ削りが施され、端部がそのまま収まる浅い椀形の器形であり、類品が少ないことから今回は蓋として扱った。 122は鉢、114～119は甕および横瓶の体部片。

(2) 土師器

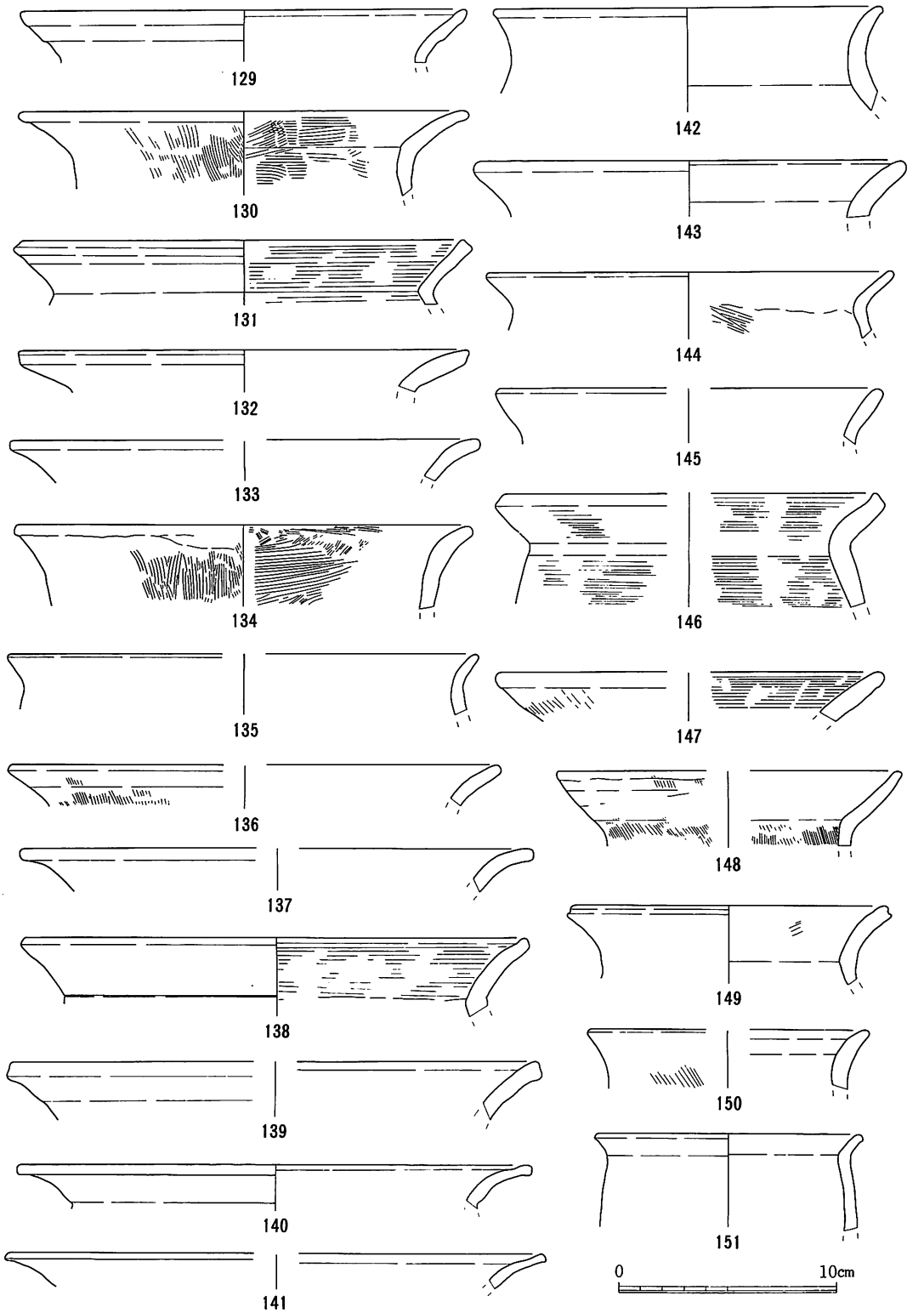
甕（第14・15図）

第14表に示すように、口径13～14cmの間に分布する小形甕と口径20cmと25cm台にピークをもつ中形甕、少量ではあるが30cm以上の大型甕の一群を確認した。

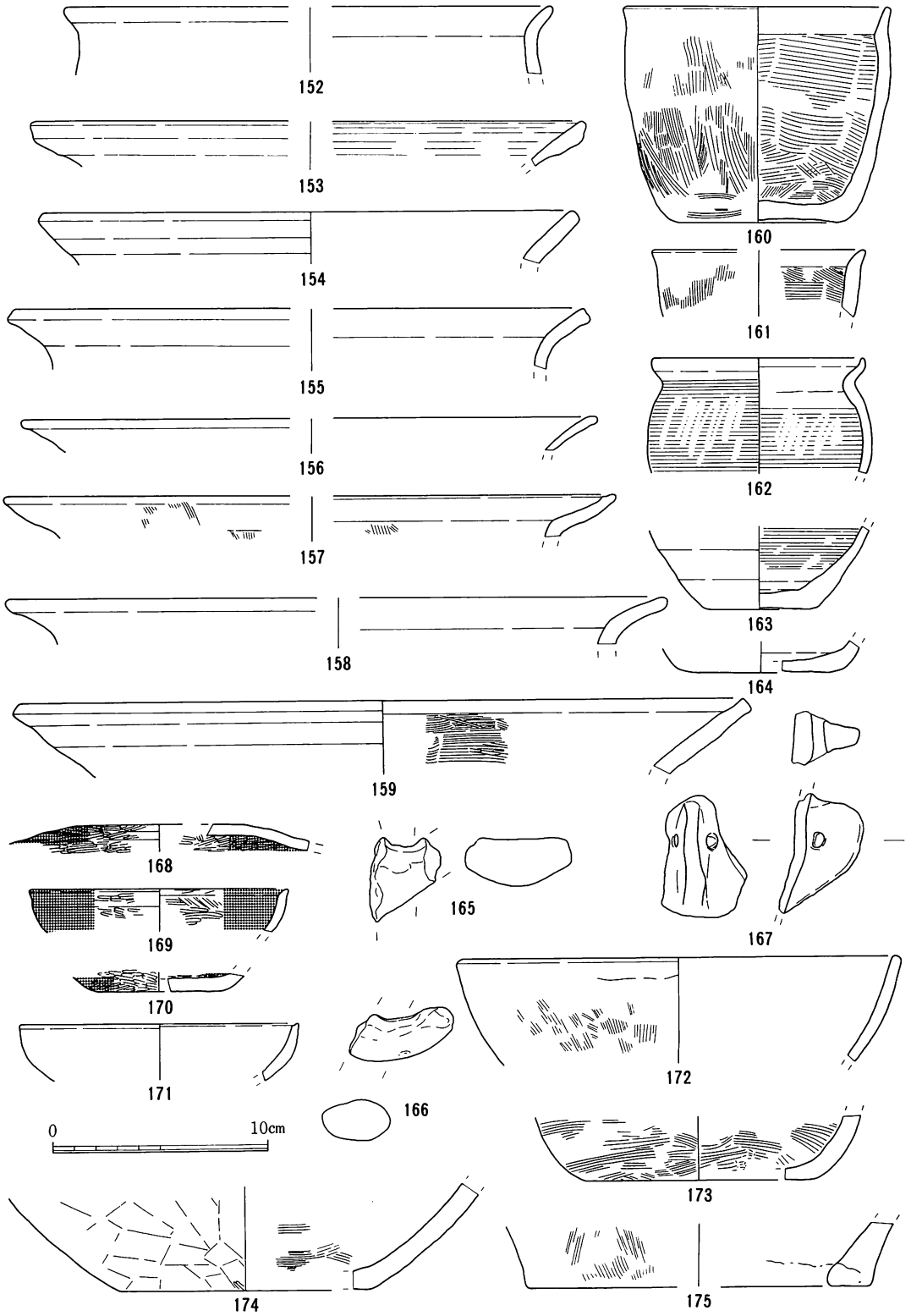
小形甕　口縁部がくの字状に外反し、そのまま端部が丸く収まるものがほとんどであるが、口縁部が短く外反させ端部をつまみ上げるカキ目調整された資料（162）が認められる。

中形甕　小形甕同様くの字口縁で端部に面をもたないものが主体となっているが、くの字口縁から端部が面をもつか、さらに上方につまみ出されるものも少数認められる。

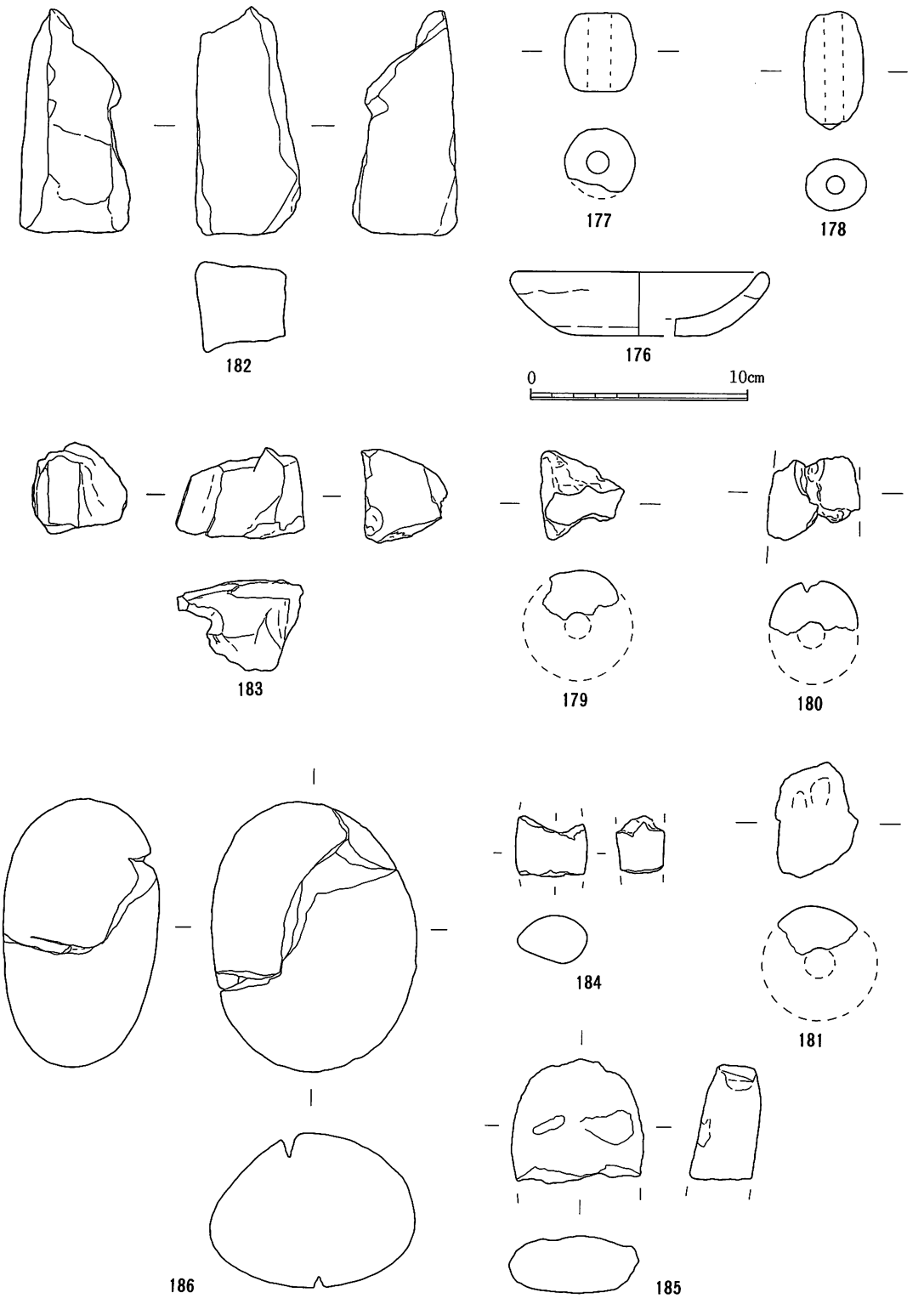
大形甕　口縁端部を面取りするもの（159）１点がある。また、底部形態では平底、回転糸切りの平底を確認している。



第14図　土師器実測図１(1/3)



第15図　土師器実測図２(1/3)



第16図　土製品・石製品実測図(1/3)

その他（第15図）

甑の底部や把手片、資料が少ないので断定できないが、外面赤彩内黒土師器・内黒土師器・両面赤彩土師器・土師器の坏蓋・椀がある。

(3) 製塩関係の土器（図版18）

平底の製塩土器になると思われる口縁部小片が１点出土している。本遺跡出土の製塩関係資料としては、これまでの棒状脚、支脚に続く確認例である。外面は通常認められる粘土紐痕を残しているが、内面はナデ調整により接合痕を消している。色調は淡黄褐色を呈する。

(4) 土製品（第16図177･178）

第２次調査までは検出例のなかった土錘が２点出土している。 177は縁に丸みをもった円柱形でずんぐりとしており、178は長さが最大径の２倍近い紡錘形を呈する。計量的にはそれぞれ全長3.7cm、5.5cm・最大径 3.3cm、2.7cm・孔径 1.0cm、0.8cm・重量35ｇ、30ｇを測る。

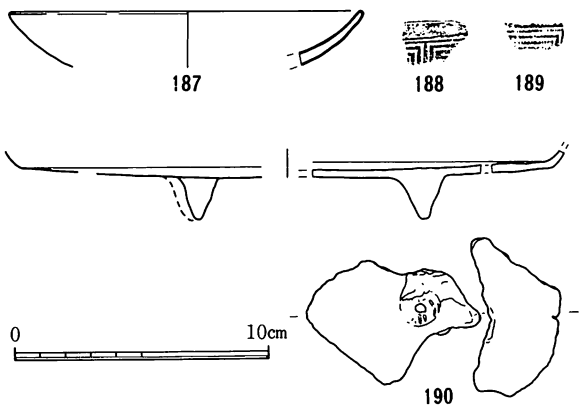
(5) 石製品（第16図182～186）

石製品では砥石（182）が１点、磨製石斧（185）１点、用途不明３点の計５点を図化掲載している。このなかで 186は使用痕や敲打痕もなく、平面・断面ともに楕円形を呈する丸みを帯びた円礫であるが、ＳＸ０１の中心部から木炭とともに被熱した状態で出土していることから掲載したものである。出土状態は木炭を最も多く含んだＳＸ０１の下層上面で、黒く焼けた裏面を中心にして３片に割れた状態で検出された。計量的には長軸12.4cm・短軸　9.6cm・重量1.19kgを測り、石材は安山岩と考えられる。

(6) 金属の生産と加工に関する遺物（第16図176･179～181）

粗い粘土で作られた「とりべ」の可能性のある薄手の椀形土器１点（176）と鞴の羽口３点（179～181）、前述砥石、また少量ではあるが銅滓の可能性のある小鉱滓[1]など、いずれもＳＸ０１および周辺の遺物包含層から出土している。

第２節　中世から近世の遺物（第17図187～191）



第17図　中世から近世の遺物実測図

表土および盛土層から出土した中世から近世にかけての遺物は、いずれも小片や細片が多く、輸入陶磁器である白磁片（ 187)、口縁部上端に水平な面をなし、外面に雷文が押印された火舎・火鉢類になると思われる瓦質土器（188･189)、底外面に三足が付く鉄鍋の底部片[2]（ 190)、銭貨として「寛永通寶」（ 191）を図示するにとどめたが、その他に中世土師器、青磁、珠洲焼、肥前系陶磁器の細片が認められる。

第６章　調査の成果と課題

本遺跡の調査は隣接する第１次と第２次の調査区を継続して行っており、さらに今回の調査が第３次ということになる。よってここでは第３次分の遺物や遺構を整理した後で、一括の形でその年代と特色を検討し、遺跡の性格を明らかにするための手がかりとしたい。

第１節　遺構と遺物の検討

土器　第３次調査で出土した土器は、須恵器の無台坏・有台坏及び蓋・高坏・横瓶・短頸・直口壷及び長頸壷・甕、土師器の坏・椀・甕などが確認されており、これまでの出土器種と比べれば簡素といえる。第15表はこれらの器種構成を示したもので、点数の計算方法は口縁部計測法を用い[3]、有台坏など蓋とセットになるものは、蓋と身の多い方の数値を採用した。

まず、全体の器種構成比率では食膳具が70.2％と高く、貯蔵具・煮炊具は 9.0％、20.8％と低い比率となっている。用途別では食膳具、すなわち食器の比率が須恵器93.3％、土師器 6.7％と須恵器が大勢を占める。むろん年代差等を無視して扱っているため、細かく見れば時期別に若干の変化はあるだろうが、奈良時代の前半を通して須恵器の優勢は変わらない。続いて貯蔵具では須恵器が、煮炊具ではすべて土師器が使用されている。

次に、須恵器だけに限定した器種構成をみると、用途別では食膳具が全体の87.9％と多数を占める。器種別では有台坏（坏蓋）が45.3％と最も多く、蓋と坏の合計値では全出土量の半数近くとなる。ついで無台坏が42.6％、その他は１割を切っている。土師器の場合では、食膳具が19％、煮炊具が81％となり、須恵器とは逆の構成比を示している。

以上、第３次調査区における出土土器の器種構成は、本遺跡における共通の様相を示してい

第15表　四柳白山下遺跡出土土器・器種構成表

四柳白山下遺跡	第１次分		第２次分		第３次分		総計	
器種構成比	個体数(%)	破片数	個体数(%)	破片数	個体数(%)	破片数	個体数(%)	破片数
須恵器　坏A	5.63(16.3)	58(17.3)	18.18(40.3)	252(36.4)	5.26(45.1)	81(42.0)	29.07(32.0)	391(33.2)
〃　坏B	23.80(69.0)	191(56.8)	23.85(52.9)	382(55.2)	5.60(48.0)	99(51.3)	52.96(58.2)	628(53.3)
〃　高坏	*	*	0.38(0.9)	7(1.0)	*	*	0.38(0.4)	7(0.7)
〃　鉄鉢	0.17(0.5)	1(0.3)					0.17(0.2)	1(*)
土師器坏または椀	4.28(12.4)	72(21.4)	2.66(5.9)	51(7.4)	0.81(6.9)	13(6.7)	7.75(8.5)	136(11.6)
〃　高坏	0.61(1.8)	14(4.2)					0.61(0.7)	14(1.2)
食膳具　総計	34.49〔68.2〕	336〔46.7〕	45.07〔68.2〕	692〔56.7〕	11.67〔70.2〕	193〔68.7〕	90.94〔68.3〕	1,177〔54.1〕
須恵器　横瓶	*	*	1.29(27.3)	54(27.7)	0.52(34.7)	3(15.8)	1.81(22.8)	57(22.3)
〃　甕	0.38(22.2)	21(50.0)	1.99(42.1)	65(33.3)	0.60(40.0)	12(63.2)	2.97(37.4)	98(38.3)
〃　壺	1.33(77.8)	21(50.0)	0.95(20.0)	49(25.1)	0.38(25.3)	4(21.0)	2.66(33.5)	74(28.9)
土師器　壺			0.50(10.6)	27(13.9)			0.50(6.3)	27(10.5)
貯蔵具　総計	1.71〔 3.4〕	42〔 5.8〕	4.73〔 7.2〕	195〔16.0〕	1.50〔 9.0〕	19〔 6.8〕	7.94〔 6.0〕	256〔11.8〕
土師器　甕	14.38(－)	341(100)	15.58(95.4)	263(79.0)	3.46(－)	69(100)	33.42(97.8)	673(90.6)
〃　鍋			0.29(1.8)	32(9.6)			0.29(0.8)	32(4.3)
〃　甑	*	*	0.45(2.8)	38(11.4)	*	*	0.45(1.4)	38(5.1)
煮炊具　総計	14.38〔28.4〕	341〔47.4〕	16.32〔24.6〕	333〔27.3〕	3.46〔20.8〕	69〔24.6〕	34.16〔25.7〕	743〔34.1〕
計測品　総計	50.58　個体	719　片	66.12　個体	1,220　片	16.63　個体	281　片	133.04　個体	2,176　片

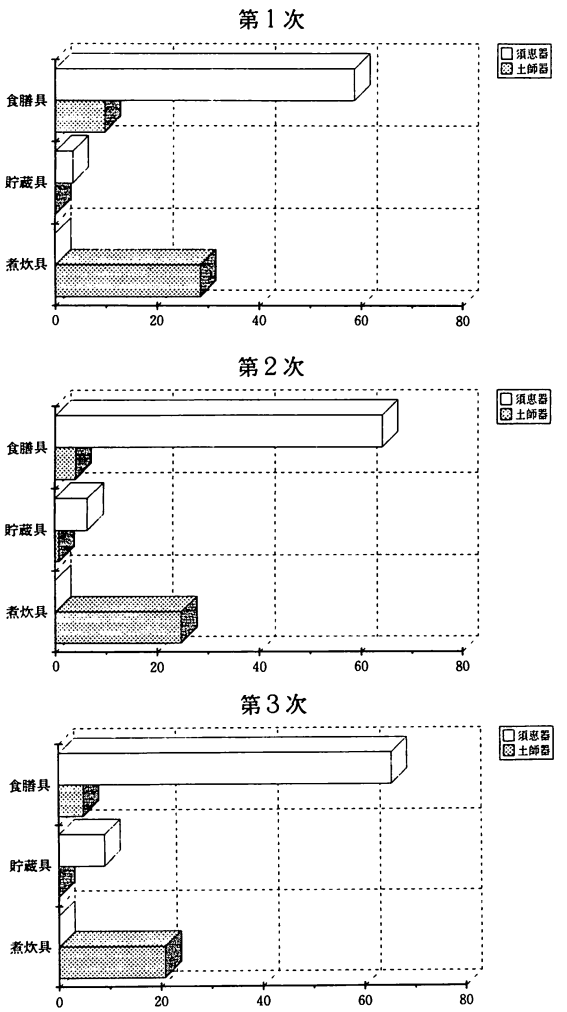
＊は存在するが比率として表われないもの

るといえよう。また、出土土器の年代については、第１次の報告で記述しているように、既存の編年に対比すれば、田嶋編年（田嶋1988）でのⅡ$_3$～Ⅳ$_1$期の範囲に比定されよう。

遺構　今回の調査における最も大きな成果のひとつは、前述出土土器の整理から奈良時代前半を主体とする本遺跡の範囲が確実に北東方向にも延びることを知り得た点にある。遺構検出時の様相も、まず南北方位の畝状溝があり、次にやはり南北の柱筋の通る柱穴をはじめとする奈良時代の生活面が存在する点はこれまでの遺構検出状況と共通するものであった。

また、検出遺構の構造や形態については、発掘範囲の制約および包含層の残存状況から判然としないが、現時点で切り合い関係の確認できない柱根の残る柱穴群と熱を受けた粘土や木炭が詰まった掘り込み（ＳＸ０１）を同時期の遺構とすれば、その性格として掘立柱建物あるいは作業空間を仕切ったりした板塀のある敷地を想定し、さらにそうした屋内外に配置された付属施設（ＳＸ０１）をもつ鋳造あるいは小鍛冶に関連した地区の可能性も考えられよう。

第16表　四柳白山下遺跡出土土器・用途別構成



第２節　まとめ

邑知地溝帯の南東山麓沿い、約４００ｍの範囲内で行われた本遺跡の第１～３次にわたる調査によって奈良時代、与木郷域内の集落が確認された。

そして、検出された遺物や遺構の様相はそれぞれに共通点と相違点をもっている。まず、各地区出土土器が同じ時代幅に収まることを前提に、共通性を再び土器構成比の面から見てみると次の５点になる。

(1) 計測品総計に対する須恵器と土師器の比率は７対３前後となっている。

(2) 食膳具においては須恵器が９割前後を占め、有台坏・無台坏が主体となっている。

(3) 両面赤彩・外面赤彩内黒・内黒・土師器の食膳具が少量存在する。

(4) 貯蔵具は全体の１割未満であり、赤彩短頸壷(第２次)を除き、全て須恵器で構成される。

(5) 煮炊具は全て土師器であり、全体の２～３割を占める。

続いて、各調査区構成比を比較対照することによって、それぞれの相違点や特徴的な点を列記すると次の４点になる。

(6) 食膳具における両面赤彩・外面赤彩内黒を主とする土師器の割合が第１次分で高い。

(7) 食膳具において須恵器の占める割合が、計測品全体の構成比率で見ると58.5%（第１次）→64.1%（第２次）→65.3%（第３次）と高くなる。

(8) 煮炊具において土師器の占める比率が、28.4%（第１次）→24.7%（第２次）→20.8%（第３次）と低くなる。

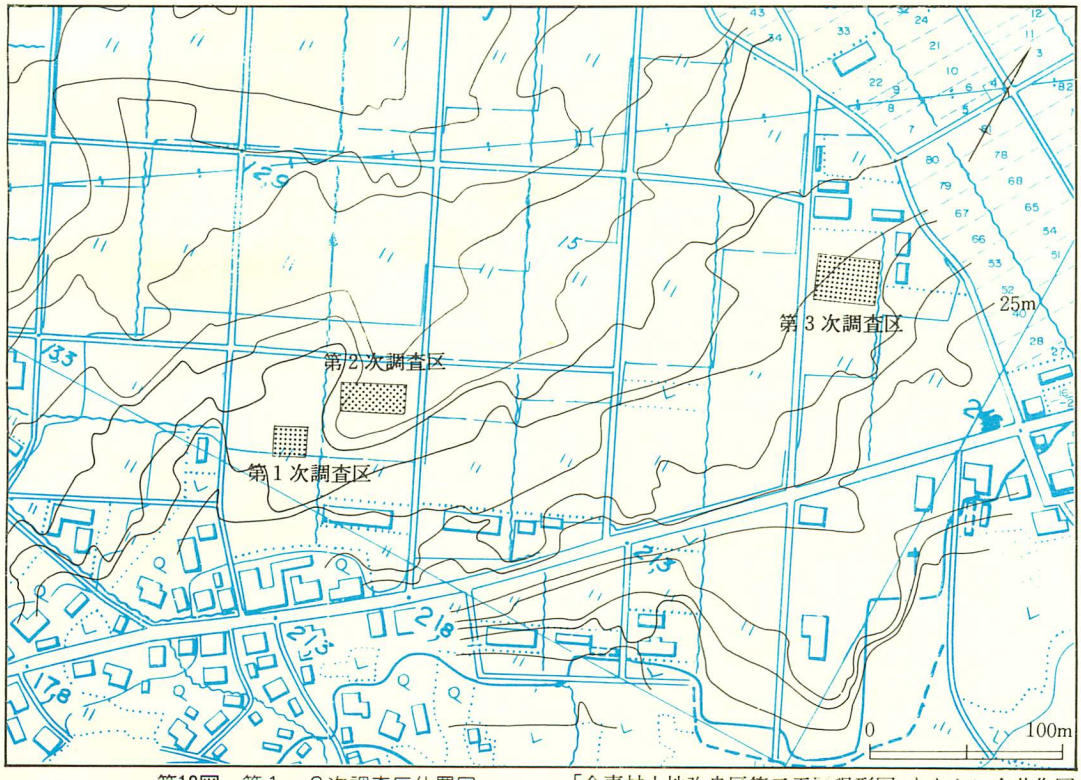
(9) 出土遺物からみた第２次と第３次の様相は異なるが、土器の計量的比率は類似している。さらに、各調査区の性格・特徴を調査成果から整理すると次の４点になる。

(10) 第１次調査区域内に配置された建物は、その規模・構造及び周辺から集中的に出土している墨書土器・円面硯・転用硯・鉄鉢などの遺物から、公的な（管理的）施設と考えられる。

(11) 第２次調査区域内では、溝あるいは柱列（掘立柱塀）で細分した小区画内に倉庫ふうの建物などが配置されている。溝内出土遺物から工房に関連した雑舎的な地区であったことが予想される。

(12) 第１次と第２次の空間では、敷地・建物の規模・性格のうえで著しい差が認められるが、建物・柱列（掘立柱塀）・配石・溝などの配置は、主軸方位の同一性に基づいて配置され、建て替えられており、建物間の同時性と計画性が表現されていると思われる。

(13) 第３次調査区内では、公的な性格を反映する遺物はなく、柱列（掘立柱塀）あるいは建物内外に配置された鋳造・小鍛冶など火を扱う工房的な施設の存在がうかがわれる。



第18図　第１～３次調査区位置図　　「余喜村土地改良区第二工区現形図」をもとに今井作図

合計で一千㎡にも満たない調査面積の成果が、そのまま本遺跡全体の評価につながるか否かは断定できないが、こうした調査成果をもとに公的な色彩の強い場という観点から並べると、第１次から第２次・第３次（南西から北東方向）という順になる。さらに、最近の調査例では第３次調査区の北東４００ｍ、奈良時代後半を主とする小金森ヘイナイメ遺跡では方形の溝に囲まれた区画内から、炉跡（石敷遺構）や関連ピットが検出されており[(4)]、本遺跡との関連、工房（小鍛冶）施設の地形的な条件・範囲・特性を提示するものとして注目される。

また、ここであげた各調査区ごとの共通点(1)～(5)と相違点(6)～(9)が、細かな場の性格にもとづく差異(10)～(13)と直接対応するのかは、資料の増加・蓄積によって補訂されなければならないであろう。当然のことながら、出土遺物の構成比を主とした計量的資料は本遺跡の範囲設定、遺跡内の様相差を明確にするためのものであり、国道１５９号鹿島バイパス改築事業によって今後急増するであろう小規模な発掘調査を通じて本遺跡の性格を明かにする際のひとつの指標として設定可能か否かも今後の作業で行っていきたい。

以上、いくつかの観点から本遺跡の検討を行ってみたが、限られた時間と紙面の都合により消化不良の点は否めない。今後の課題も含めて各方面からの批判をうけることを希求している。

註

(1)　小嶋芳孝氏の御教示による。

(2)　垣内光次郎氏の御教示による。

(3)　出土土器の構成比を主とした計量的手法に関しては、以下の文献で宇野隆夫氏が示されている考え方を基本とした。「越中の国府・荘家・村落」『歴史学と考古学』高井悌三郎先生喜寿記念論集 1988

(4)　川畑　誠氏の御教示による。

第17表　四柳白山下遺跡出土土器観察表１

挿図No.	器種	器形	調整	胎土 海綿骨片	胎土 砂粒	胎土 雲母	断面	現存量 (/24)	計測値 A	B	C	D	E	F	G	H	I	遺構出土地点	備考
1	須恵器	坏蓋	内外面ナデ、天井部ヘラ削り		SM4,L5		Ⅳ	5.4	2.5	2.3	10.2	12.7	1.0	0.8	0.6	2.4		C4区	
2	〃	〃	内外面ナデ		S3,M2		Ⅲ	0.8				11.8						E4	
3	〃	〃	内外面ナデ 天井部ヘラ削り		SM2,L3		Ⅱ	3.6	2.6	1.9	10.3	13.1	0.8	1.3	0.75	2.85		D4	
4	〃	〃	内外面ナデ		SM3		Ⅱ		1.6	2.0					1.4			畦南側	外面降灰
5	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM4,L3		Ⅲ	0.2			9.8	11.1	0.8					D1	
6	〃	〃	内外面ナデ		SM3		Ⅰ	1.8				14.0						D3	
7	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM3,L2		Ⅰ	1.4	2.0	1.85	11.2	12.6	0.9	1.3	0.8	3.0		D3,4	
8	〃	〃	ナデ		SM2		Ⅲ	2.0				13.8						D4	
9	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM3		Ⅰ	1.4					1.0					E4	
10	〃	〃	ナデ、天井部削り		SM2,L3		Ⅲ	2.6			9.0	12.1	1.5					D2	
11	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM4		Ⅱ	10.0	3.4	3.0	8.8	15.2	2.0	0.4	0.6	3.0		SU02畦東側	
12	〃	〃	ナデ		SM4		Ⅰ	4.2				14.0						D3,SU04	
13	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		S3		Ⅰ	2.0					1.0					D4	
14	〃	〃	ナデ、天井部削り		SM4,L3		Ⅲ	4.0	2.8	2.7	12.0	14.5	1.1	0.2	0.55	1.85		D3	
15	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM3,L2		Ⅲ	3.6			8.9	14.6	1.7					D4	
16	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM2		Ⅲ	10.0	2.0	2.2	8.6	14.0	1.3	0.2	0.4	1.9		D3	
17	〃	〃	ナデ、天井部削り		SM3		Ⅰ	2.0			10.0	14.2	1.2					D4	
18	〃	〃	ナデ		SM2,L2		Ⅲ	3.0				14.8						D3	
19	〃	〃	ナデ、天井部削り		SM5		Ⅰ	5.2			10.0	15.0	1.5					D3	
20	〃	〃	ナデ、天井部削り		SM2,L2		Ⅲ	8.0			12.4	14.1	1.35					D3,SX-01	
21	〃	〃	ナデ		SM2		Ⅰ	1.2				14.7						D4	
22	〃	〃	ナデ、天井部削り		SM2,L2		Ⅲ	2.0	2.9	2.4	9.0	14.2	0.9		0.9	1.5		D2,3,E3,北側壁面	
23	〃	〃	ナデ、天井部削り		SM2,L1		Ⅳ		3.7	3.5					0.6			D3,SX-01	
24	〃	〃	ナデ		S2,M1		Ⅲ		2.65	2.35					0.7			D2	
25	〃	〃			SM2		Ⅰ		2.6	2.4					0.8			D3	
26	〃	〃	ナデ		S2,M1		Ⅰ		2.4	2.2					1.0			D4	
27	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM3		Ⅰ		2.3	2.0	7.7			0.2	0.7			D2	
28	〃	〃	ナデ、天井部削り		SM3,L2		Ⅰ		3.3	3.2	11.3			0.2	0.5			C3,4 北壁面	天井部内面ヘラ書？
29	〃	〃	ナデ、天井部削り		SM2		Ⅰ		3.0	2.8	10.0			0.3	0.7			E3	
30	〃	〃	内外面ナデ 天井部削り一部ハケメ		SM3		Ⅳ	8.0			8.9	16.2	3.0					D3	
31	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM3,L2		0	5.0			16.0	15.4	1.95					D3	
32	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM2,L2		0	3.2			12.4	17.4	1.7					D4	
33	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM3		Ⅲ	3.0			10.6	16.0	2.1					C3,D3	
34	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM2		Ⅰ	2.0			10.6	15.4	1.65					D4	
35	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM3		Ⅰ	1.2			11.6	16.4	1.4					E1	
36	〃	〃	内外面ナデ		SM1,L1		Ⅰ	2.2				16.2						D4	
37	〃	〃	内外面ナデ		SM3		Ⅰ	2.0				16.1						畦北側	外面降灰
38	〃	〃	内外面ナデ		SM3		Ⅲ	2.0				15.4						D4	
39	〃	〃	内外面ナデ、天井部削り		SM3		Ⅱ	2.0			10.4	14.4	1.8					D3	
40	〃	有台坏	内外面ナデ		SM4,L3		Ⅰ	18.2(24)	8.8	8.8	12.4	13.4	2.1	1.4	0.3	3.8	73°	D3	
41	〃	〃	内外面ナデ		SM4,L3		Ⅰ	7.0(7)	9.4	9.4	11.4	13.0	2.35	0.9	0.4	3.65	67°	D3,E3	
42	〃	〃	内外面ナデ、底部削り		SM3		Ⅳ	4.0(10.0)	7.8	8.7	12.0	13.6	1.9	1.7	0.6	4.2	64°	D3,SU04	
43	〃	〃	内外面ナデ		SM2		Ⅱ	1.5(3.8)	7.0	6.9	9.0	11.9	2.55	1.4	0.5	4.45	58°	D3	
44	〃	〃	内外面ナデ		S4,M2,L2		Ⅰ	4.5					3.0	1.8			61.5°	D4	体部外面降灰
45	〃	〃	内外面ナデ、体部外面削り		SM3		Ⅰ								1.5	0.5		D3	
46	〃	〃	内外面ナデ、体部外面一部削りの後ナデ		SM2,L3		Ⅰ	9.0(22.0)	7.7	8.8	12.4	14.8	2.9	2.3	0.5	5.7	65°	D3,SU04	
47	〃	〃	内外面ナデ		S1		Ⅳ	(3.0)	6.2	6.9	10.3			0.9	0.75			D3,SX-01	
48	〃	〃	内外面ナデ		SM3		Ⅰ	(3.0)	9.2	8.5	11.8			0.8	0.8			D3	外面降灰
49	〃	〃	内外面ナデ		SM3		0	(8.0)	9.0	8.5					0.8			E4	
50	〃	〃	内外面ナデ、底部削り？		SM2,L2		0	(5.0)	7.4	8.0					0.7			東壁面削平	底部、体部外面一部墨痕

第18表　四柳白山下遺跡出土土器観察表２

挿図No.	器種	器形	調整	胎土 海綿骨片	胎土 砂粒	胎土 雲母	胎土 断面	現存量 (/24)	計測値 A	B	C	D	E	F	G	H	I	遺構出土地点	備考
51	須恵器	有台坏	内外面ナデ		SM2,L2		0	(23.0)	6.4	7.8					0.5			畦西側	
52	〃	〃	内外面ナデ		SM2		Ⅲ	(4.0)	9.0	10.0	12.4			0.9	0.4			D4	底部外面ヘラ書「++」 体部外面降灰
53	〃	〃	内外面ナデ		SM2		Ⅲ	(6.0)	5.8	6.8	9.3			0.7	0.5			A1,D3 ?	
54	〃	〃	内外面ナデ 体部、底部一部削り？		SM3,L2		Ⅲ	4.6(13.0)	8.0	8.5	9.9	11.8	2.8	0.5	0.5	3.8	69°	D4,E3	
55	〃	〃	内外面ナデ		SM4,L3		0	(5.0)	7.6	8.8	11.4			1.1	0.4			D4	
56	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L2		Ⅰ	2.5(5.0)	7.6	8.7	10.7	12.0	2.2	0.85	0.4	3.45	70°	A1,3	
57	〃	〃	内外面ナデ		SM4		0	0.4(8.0)	9.0	8.8	11.4	12.9	1.95	1.1	0.5	3.55	66°	D4	
58	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L2		Ⅰ	(4.5)	8.9	8.9					0.45			E3	
59	〃	〃	内外面ナデ		SM2		Ⅰ	(5.0)	7.4	8.1	9.2			0.65	0.55			E4	
60	〃	〃	内外面ナデ		SM2		Ⅰ	(4.0)	7.7	8.1	11.1			0.8	0.2			D4	体、底部内面 体、底部外面一部降灰
61	〃	〃	内外面ナデ		SM2		Ⅰ	1.2(1.4)					2.85	0.65	0.4	3.9	63°	D1,2	
62	〃	〃	内外面ナデ 底部外面削り？		SM2,L2		Ⅲ	(15.6)	7.0	7.2	8.5			0.3	0.45			C4	
63	〃	〃	内外面ナデ		SM2		Ⅲ	(10.0)	7.0	7.1	9.6			0.8	0.5			C1	
64	〃	〃	内外面ナデ		SM1,L3		0	(12.0)	6.6	7.3					0.5			D4サブトレンチ	底部外面墨痕
65	〃	〃	内外面ナデ		SM3		Ⅰ	(11.0)	6.8	8.2	10.6			0.6	0.3			D4	
66	〃	〃	内外面ナデ		SM4		0	(10.3)	8.4	8.3	11.3			1.3	0.4			SU01, SU02	
67	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L2		Ⅲ	6.0(24.0)	8.7	9.4	10.5	12.6	3.0	0.65	0.6	4.25	68°	D4	体部外面一部降灰
68	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L2		Ⅲ	(1.0)	6.6	8.0	11.6			0.85	0.4			D4	外面降灰
69	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L2		Ⅲ	(5.0)	8.7	8.8					0.5			C4	
70	〃	〃	内外面ナデ		SM2		Ⅰ	(2.6)						0.65	0.25			E3	
71	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L2		Ⅲ	(4.5)	8.4	9.2					0.4			D4	底部外面ヘラ書き 「厂」
72	〃	〃	内外面ナデ		SM1		Ⅳ	(4.0)	11.2	11.2					0.55			C4	
73	〃	〃	内外面ナデ		SM3		Ⅰ	(6.0)	11.2	10.8					0.6			E4	
74	〃	〃	内外面ナデ		SM2,L3		Ⅲ	(17.0)	6.6	7.2	9.3	11.2	3.75	0.8	0.4	4.95	74°	D4	底部外面墨痕
75	〃	無台坏	内外面ナデ		SM2,L2		Ⅳ	2.0		6.6		12.8				3.3	64°	D2,4	
76	〃	〃	内外面ナデ		SM2,L1		Ⅲ			6.0								排土中	
77	〃	〃	内外面ナデ		S1,M2		Ⅲ	1.3		8.0		12.6				3.2	61°	D4	体部、底部内面 一部降灰
78	〃	〃	内外面ナデ		SM1,L1		Ⅲ	0.8		8.0		13.0				3.3	62°	D3,4,E4	
79	〃	〃	内外面ナデ		SM2		0	2.8		7.8		12.6				3.35	67°	E3	
80	〃	〃	内外面ナデ		SM1,L2		Ⅰ	2.6		8.5		13.4				3.5	64°	D3,SU04	
81	〃	〃	内外面ナデ		SM2,L3		0	9.0		8.6		14.0				3.6	68°	D4	
82	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L1		Ⅰ	1.8		9.0		14.3				3.35	67.5°	C4,D4	
83	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L3		Ⅳ			9.8								E4	体部外面一部降灰
84	〃	〃	内外面ナデ		SM2		Ⅲ			10.2								D3	
85	〃	〃	内外面ナデ		S1,L3		Ⅲ	2.8		7.4		11.3				2.7	58°	C4	
86	〃	〃	内外面ナデ		SM2,L2		Ⅳ	2.8		6.8		11.6				3.0	64°	D3	
87	〃	〃	内外面ナデ		SM2,L1		Ⅲ			6.8								D3	
88	〃	〃	内外面ナデ		SM4		0			7.0								D4	
89	〃	〃	内外面ナデ 体部外面一部削り？		SM3		Ⅲ			8.0								C3	
90	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L2		Ⅳ			7.4								D4	底部外面ヘラ書き 「ｌ ノ」
91	〃	〃	内外面ナデ		SM2		Ⅲ			4.2								E2	
92	〃	〃	内外面ナデ		SM2,L2		Ⅲ			8.6								D4	
93	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L3		Ⅰ			6.2								D3	
94	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L2		0	3.0		6.6		12.8				3.2	58°	E3	
95	〃	〃	内外面ナデ		SM2,L1		Ⅰ	6.0		7.6		11.8				3.4	62°	D3	
96	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L3		Ⅳ	4.0		7.4		12.2				3.3	61°	D4	
97	〃	〃	内外面ナデ		SM4		0	2.5		7.6		12.0				3.6	66°	C4	
98	〃	〃	内外面ナデ		SM5		Ⅰ			7.6								E3,4	
99	〃	〃	内外面ナデ		SM4,L2		Ⅲ									3.4	70°？	E4	

第19表　四柳白山下遺跡出土土器観察表３

挿図No.	器種	器形	調整	胎土 海綿骨片	胎土 砂粒	胎土 雲母	胎土 断面	現存量 (/24)	調測値 A	B	C	D	E	F	G	H	I	遺構出土地点	備考
100	須恵器	無台坏	内外面ナデ		SM2,L2		0	(24)		7.6								D3,4, SU02	
101	〃	〃	内外面ナデ		SM2		0	2.2		5.6		12.7				3.85	70.5°	D4	
102	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L2		0	21.5		7.8 (3.4)		12.2				4.0	61.5°	D3, SU04	
103	〃	甕?	口縁部内外ナデ		SM4		Ⅰ	1.0?				32.4?						D3	内面及び外面口唇部降灰
104	〃	〃	口縁部内外ナデ 体部外面叩き		SM2		0	2.2			27.0	27.8			2.6		79°	D4	体肩部沈線
105	〃	壺?	口頸部内外面ナデ		SM4		Ⅲ					8.8?						E3	口頸部外面降灰
106	〃	〃	口頸部内外面ナデ		SM3,L4		Ⅲ	0.4?				14.8?						B1	
107	〃	〃	口頸部内外面ナデ		SM1		Ⅲ	1.5?				13.6?						排土中	口頸部外面降灰
108	〃	〃	口頸部内外面ナデ		SM3,L1		Ⅰ	4.7				10.4						C4	口頸部内外面釉付着
109	〃	〃	口頸部内外面ナデ 口頸部外面ハケメ?		SM2		Ⅲ	3.5			7.4	9.4			1.9		57°	C1,2	口頸部内外面降灰
110	〃	〃	口頸部内外面ナデ		SM4		Ⅰ	0.8										B3	口頸部外面 櫛描波状文文様体
111	〃	〃	口頸部内外面ナデ		S3,M1		0	0.6?										D4	
112	〃	甕?	口頸部内外面ナデ		SM4,L2		Ⅰ	1.2			21.5	25.2			2.9		49.5°	D3	
113	〃	?	内外面ナデ		SM3		Ⅳ											E4	櫛描波状文
114	〃	甕	体部外面横ナデ 体部内面同心円文		SM2,L2		Ⅰ											E4	
115	〃	〃	体部外面平行叩き 体部内面同心円文		SM4,L3		Ⅰ											D4	
116	〃	横瓶	体部外面平行叩き・カキ目、体部内面同心円文		SM4,L2		Ⅰ											D3	
117	〃	甕	体部外面平行叩き 体部内面同心円文		SM3,L3		Ⅰ											D4	
118	〃	〃	体部外面平行叩き 体部内面同心円文		SM3,L3		Ⅰ											E3	
119	〃	〃	体部外面平行叩き 体部内面同心円文		SM2		0											D4	
120	〃	坏蓋	内外面ナデ、天井部削り		S2		Ⅲ	1.0			5.8	13.0	3.55					D4	
121	〃	〃	内外面ナデ		SM3		Ⅰ											D3	外面降灰
122	〃	鉢?	口縁部内外面ナデ		SM2		Ⅲ	0.4										E4	
123	〃	坏			SM3,L1		Ⅲ	1.3										E2	
124	〃	壺(頸部)	内外面ナデ		SM2		Ⅲ											D4	肩部沈線
125	〃	壺(脚部)	内外面ナデ		SM2		Ⅰ	2.1	9.8									A1	
126	〃	〃	内外面ナデ		SM3		Ⅲ	5.0	11.2									D3	内外面釉付着
127	〃	壺?	内外面ナデ		S3,M1, L2		Ⅲ	(7.0)										D4	
128	〃	〃	内外面ナデ		S2,M1		Ⅲ											C4,D4,E3	
129	土師器	甕	内外面ナデ		SM3,L2			2.0				20.4						C4	
130	〃	〃	口頸部内外面ハケメ		S3,M2,L1			1.5				20.4						D3,SX-01	
131	〃	〃	口頸部外面ナデ 口頸部内面カキ目?		SM3			1.5			17.6	20.5			2.5		49°	D4	
132	〃	〃	口頸部内外面ナデ		SM3,L2			2.3				20.8						東壁面削平	
133	〃	〃	口頸部内外面ナデ		S2,M1			1.5?										E4	
134	〃	〃	口頸部内外面ハケメ		S1,M2			2.6				20.9							
135	〃	〃	内外面ナデ		SM3													E2	
136	〃	〃	口頸部外面ハケメ 口頸部内面ナデ		S3,M2													D3	
137	〃	〃	口頸部内外面ナデ		S3,M2													D3	
138	〃	〃	口頸部内外面ナデ		SM3			2.4			19.6	23.2			2.7		49°	SU04	
139	〃	〃	口頸部内外面ナデ		SM3													E3畦南側	
140	〃	〃	口頸部内外面ナデ		SM3			1.2			19.0	23.7			1.8		28°	C4	
141	〃	〃	口頸部内外面ナデ		SM2													C4	
142	〃	〃	口頸部内外面ナデ		S2						16.3	17.7			2.3		68°	D3	
143	〃	〃	口頸部内外面ナデ		SM3							19.3						E3,4	
144	〃	〃	口頸部外面ナデ 口頸部内面ハケメ		S3						16.3	18.6			1.25		51°	E3	

第20表　四柳白山下遺跡出土土器観察表４

挿図No.	器種	器形	調整	胎土 海綿骨片	胎土 砂粒	胎土 雲母	胎土 断面	現存量 (/24)	計測値 A	B	C	D	E	F	G	H	I	遺構出土地点	備考
145	土師器	甕	内外面ナデ		SM4													D3,SU05	
146	〃	〃	内外面ナデ		SM3										2.3		48°	D4	
147	〃	〃	内外面ナデ		SM3,L2													D1	
148	〃	〃	内外面ナデ 口頸部外面一部ハケメ？		SM3,L2													C4	
149	〃	〃	内外面ナデ		SM2			2.4			11.7	14.2			2.55		53°	D3	
150	〃	〃	内外面ナデ 体部外面一部ハケメ？		SM3										2.35		64°		
151	〃	〃	内外面ナデ		SM4			1.6			11.1	12.0			1.05		55°	D4	
152	〃	〃	内外面ナデ		SM2			1.0?							1.5		60°	D2	
153	〃	〃	口頸部外面ナデ 口頸部内面カキメ		S3,M1													？(D4)	
154	〃	〃	内外面ナデ		SM3			3.2				24.7						畦西側	
155	〃	〃	内外面ナデ		SM3													D3,SU04	
156	〃	〃	内外面ナデ		SM4													D3	
157	〃	〃	口頸部内外面ナデ 体部外面一部ハケメ		SM3													畦西側	
158	〃	〃	内外面ナデ		SM4,L2													D4	
159	〃	〃	内外面ナデ 口頸部内面ハケメ		SM3,L2													D3	
160	〃	〃	口頸部内外面ナデ 体部内外面ハケメ		SM2			0.6(12.0)	7.4	12.4	12.2	12.1	6.6	2.4	1.15	10.15	81°	D3,SU04	
161	〃	〃	口頸部内外面ナデ 体部内外面ハケメ		SM3													D4	
162	〃	〃	口頸部内外面ナデ 体部内外面カキメ		SM4,L3			1.2		10.4	8.9	9.8		3.1	1.2		66°	D4	
163	〃	〃	体部外面ナデ、体部内面 カキメ、底部糸切り痕有		SM3			(10.0)	4.6									E4?	
164	〃	〃	内外面ナデ		S3,M2			(7.2)	6.2									E4	
165	〃	把手			SM4													D3	
166	〃	〃			SM4													D,E3区？	
167	〃	〃			SM3,L3													D3,SU04	
168	〃	坏蓋	内外面磨き、天井部削り		S2													A4	黒色土器
169	〃	椀	内外面磨き、天井部削り		S2			1.3				11.9						D3,A4	〃
170	〃	〃	内外面磨き、天井部削り		S2				5.7									D3	〃
171	〃	〃	内外面磨き、天井部削り		S3,M2						12.05	12.8						D3	
172	〃	〃	内外面磨き？ 体部外面ハケメ		S4,M2			2.2				20.2						E3	
173	〃	甕？	内外面ハケメ		SM3,L4			(7.4)	10.4									D3,SU04	
174	〃	〃	体部外面削り 体部内面一部ハケメ		SM3,L4				11.7									D3,SX-01	
175	〃	甑	外面ハケメ		S4,M2,L2													SU03	

写　真　図　版

図版1

邑知地溝帯と四柳白山下遺跡

四柳白山下遺跡俯瞰

第３次調査区遠景（南西より石動山系を望む）

第３次調査区遠景（南東より眉丈山系を望む）

第３次調査区近景（南東から）

重機による表土除去作業（南東から）

人力による掘進作業（南東から）

人力による遺構掘り下げ作業（北東から）

SU０５～０８検出状況（東から）

掘り上がったSU０５～０８（東から）

D・E－３・４区遺構検出状況（南東から）

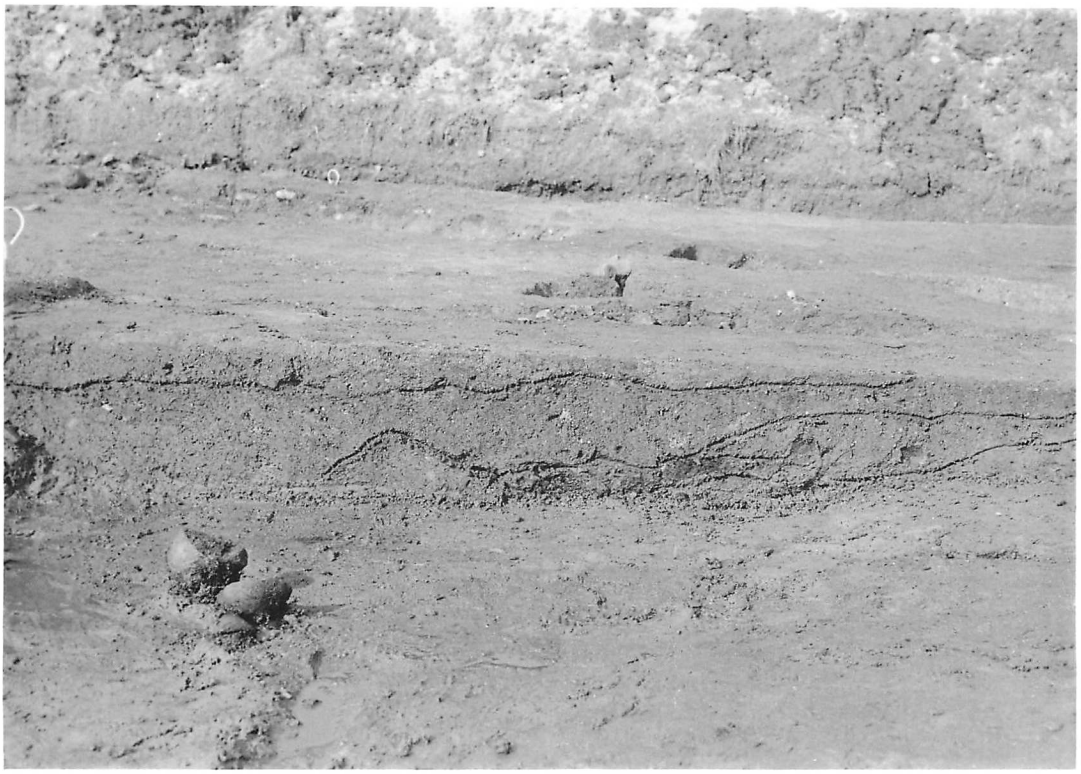
掘り上がったD・E－３・４区（南東から）

掘り上がった柱列（北東から）

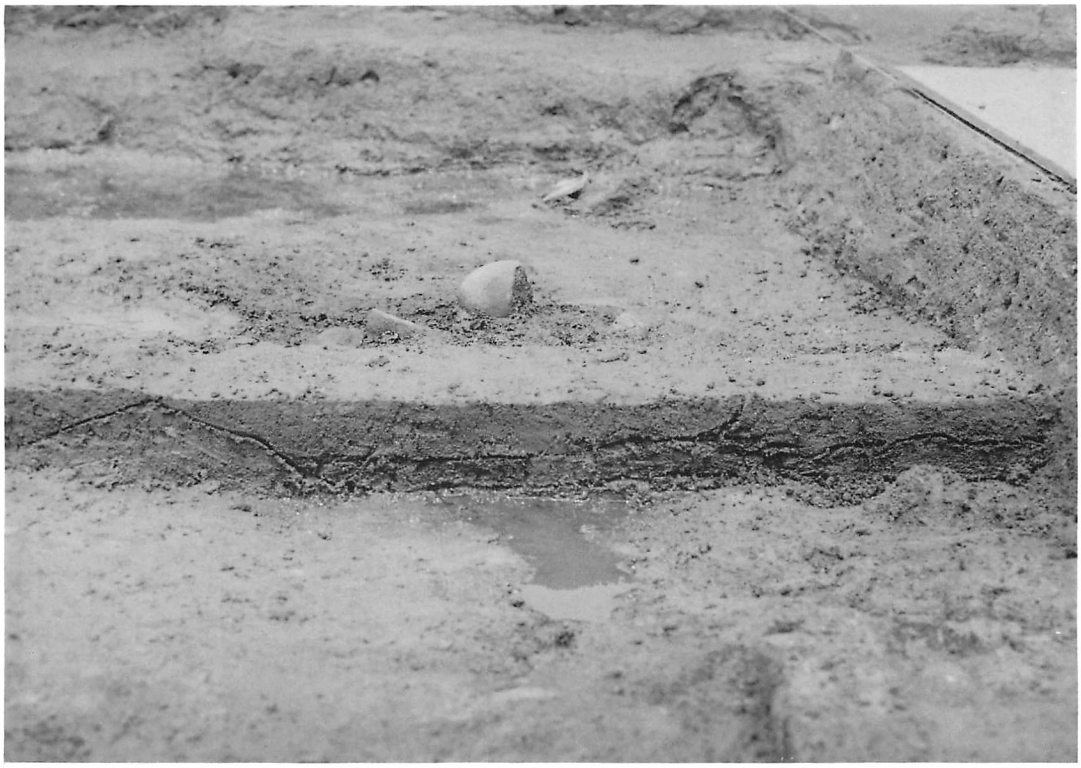
掘り上がった柱列（南東から）

SX０１検出状況（南東から）

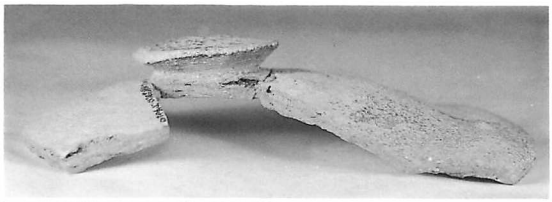
SX０１中心部（北東から）

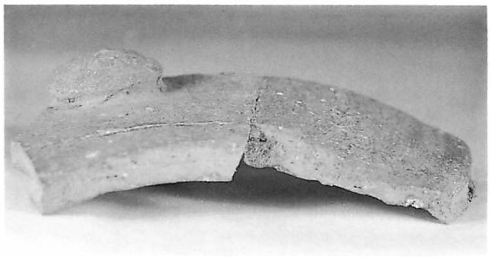


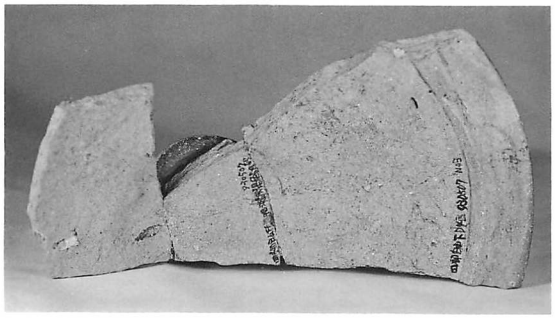
掘り上がったSX０１（西から）



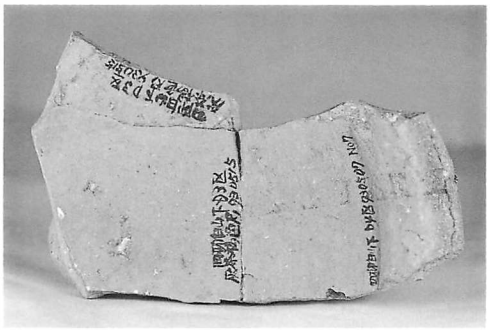
SX０１断面（南から）



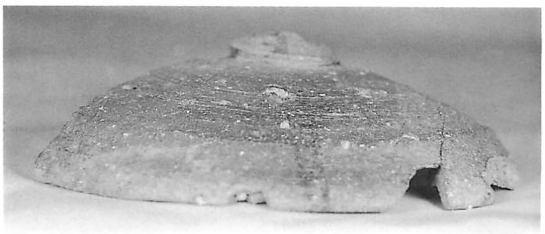


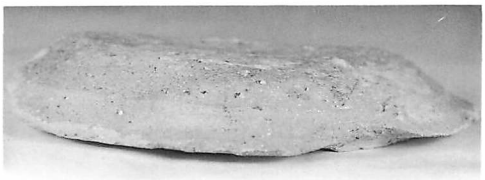


3

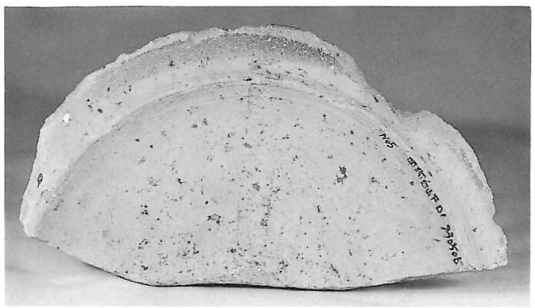


7

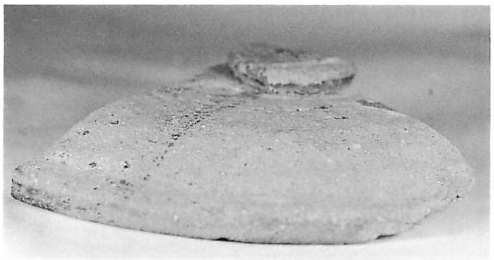




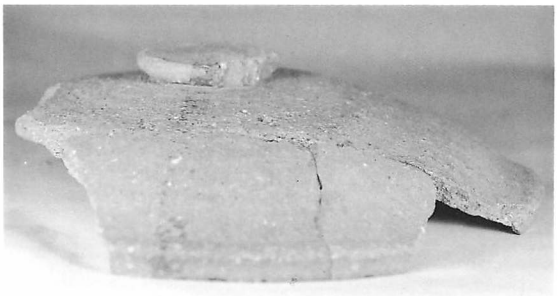
1



5

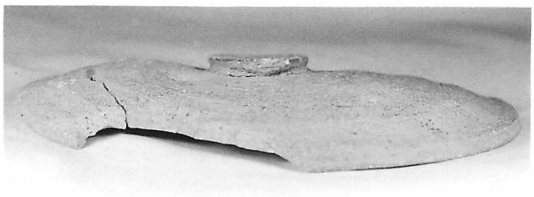


14

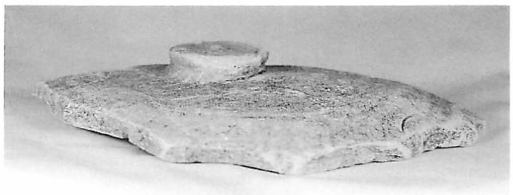


11

須恵器　蓋

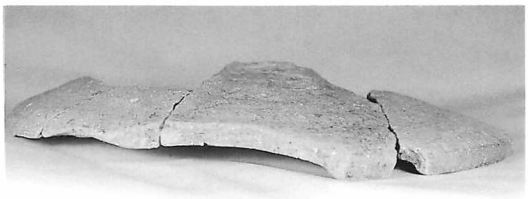


16

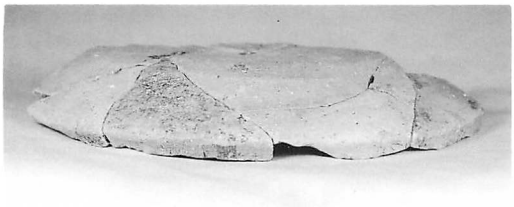


29

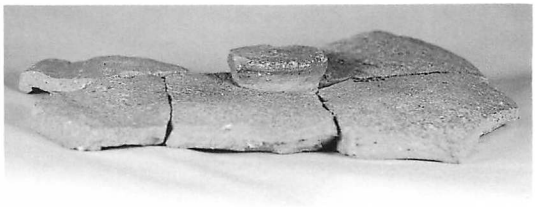
20



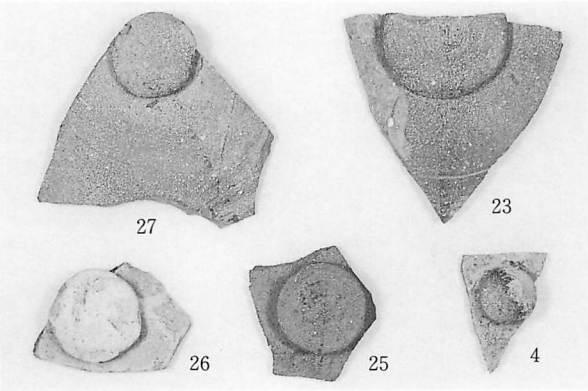
20

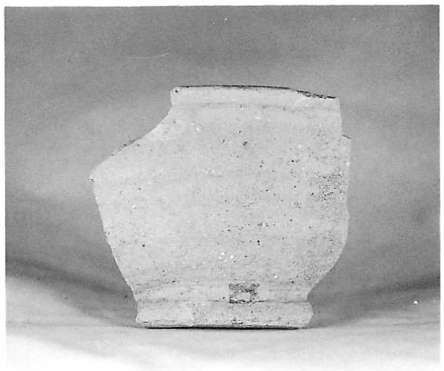


31

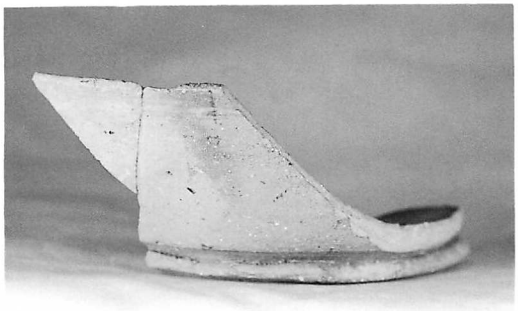


22





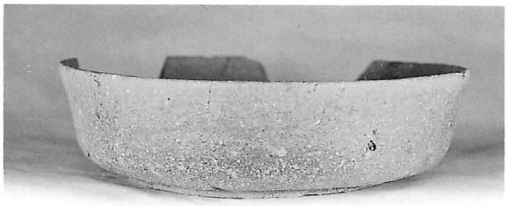
43



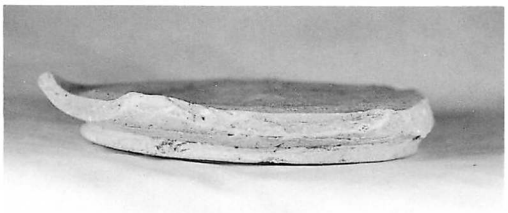
42

46

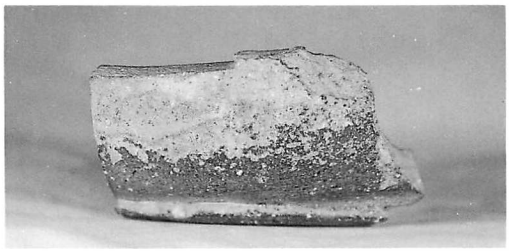
須恵器　蓋・有台坏

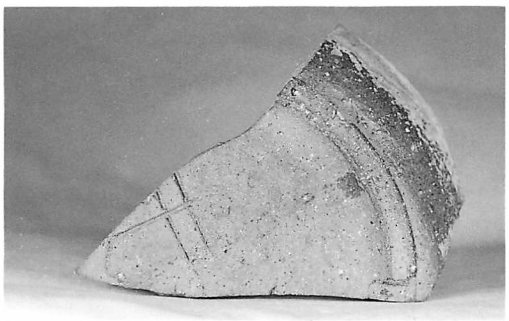


40

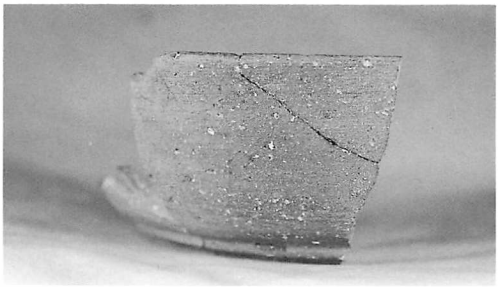


51

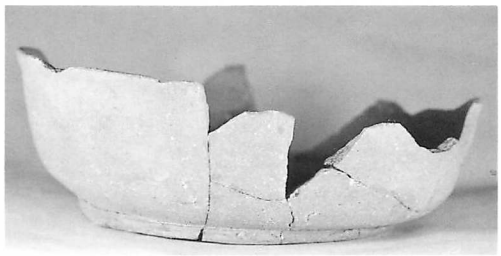




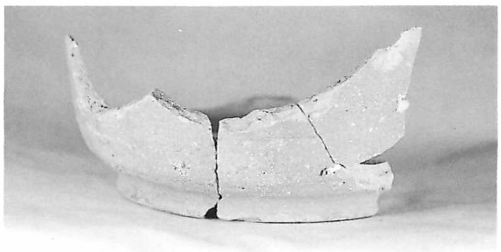
52



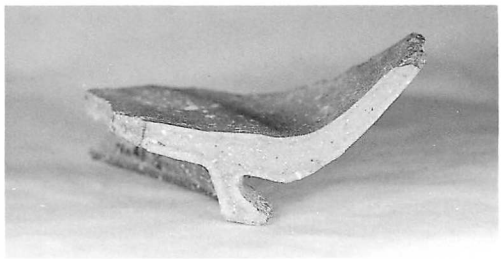
56



67



74



48

77

須恵器　有台坏

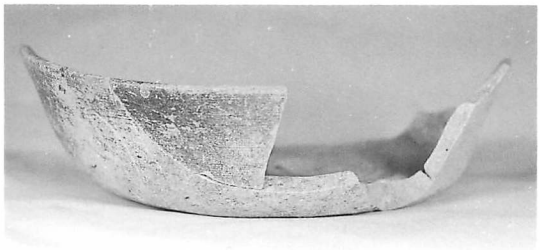
79

80

81

82

94



95

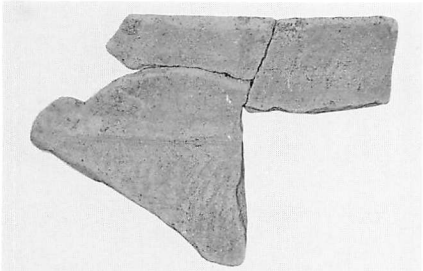
96

100

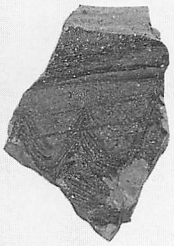
101

102

須恵器　無台坏

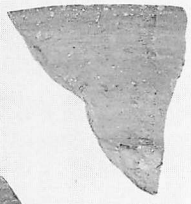

104

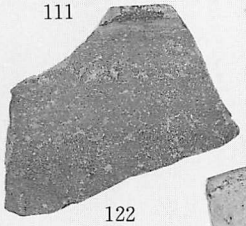
119


113

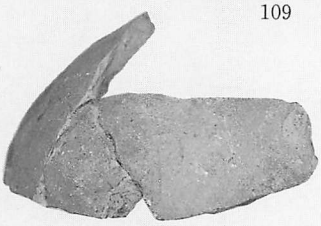
108

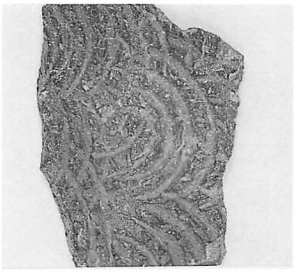
111


112

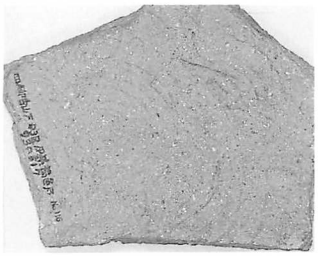

122

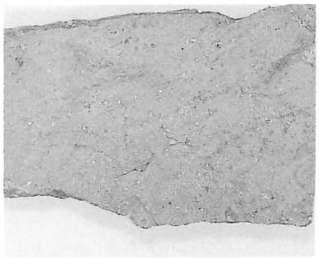
109

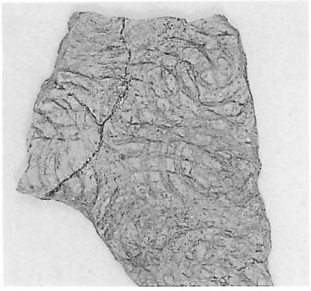

128



114

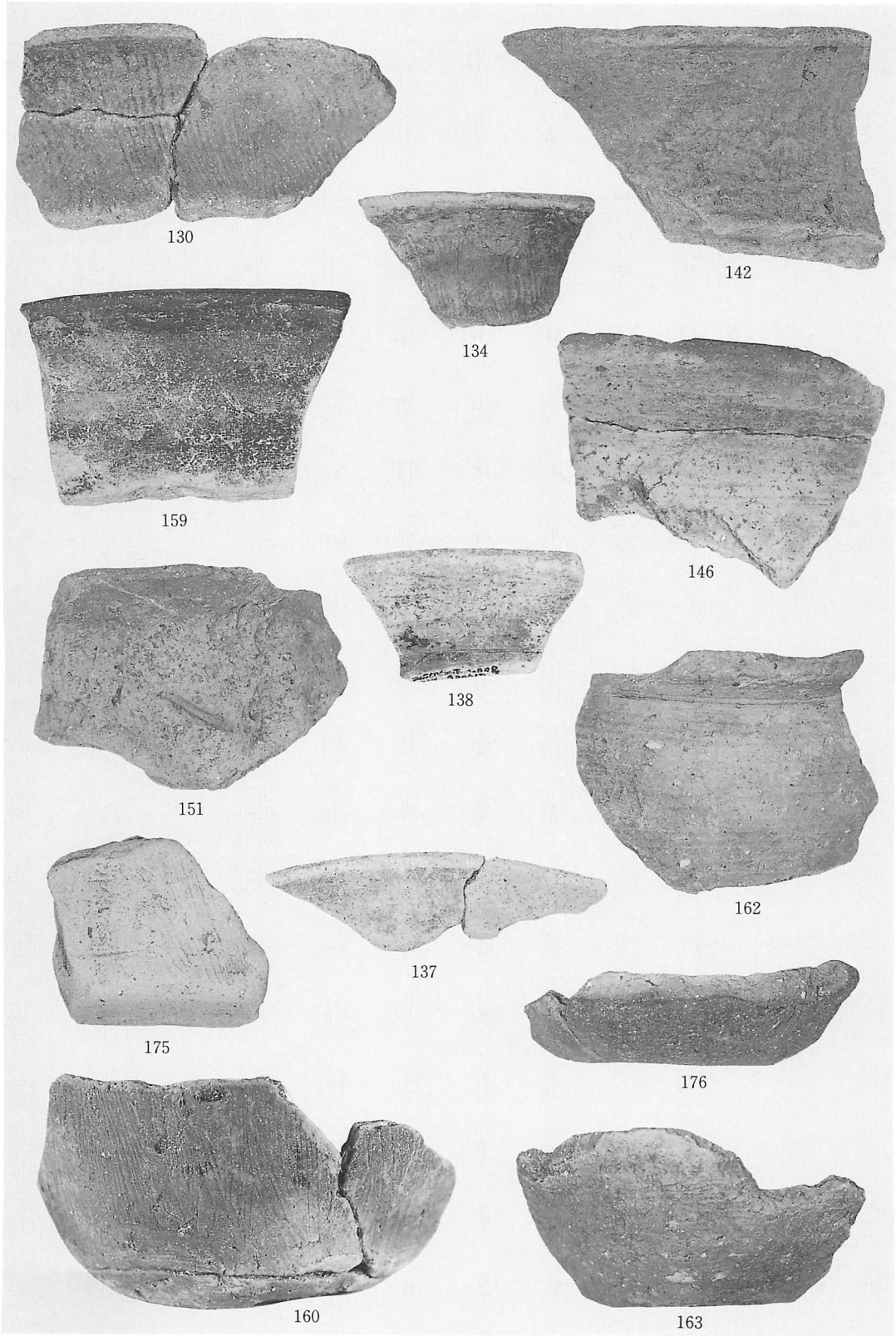

116


117


118

119

須恵器　甕・壷・横瓶

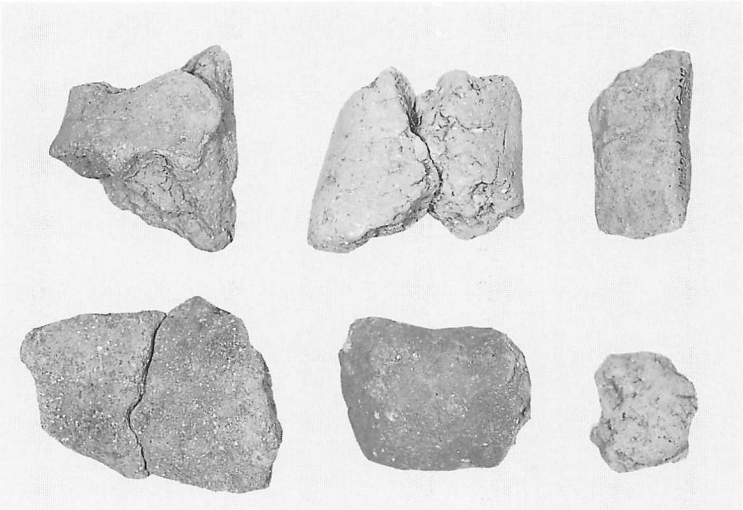


土師器　甕

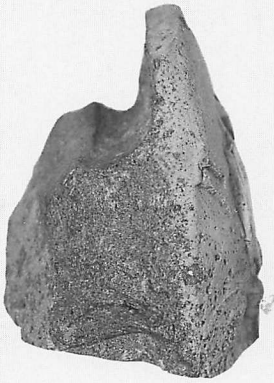
177

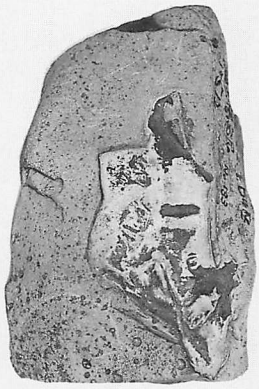
178

製塩土器

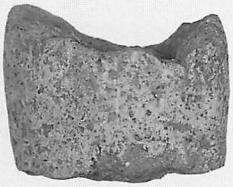


鞴羽口片

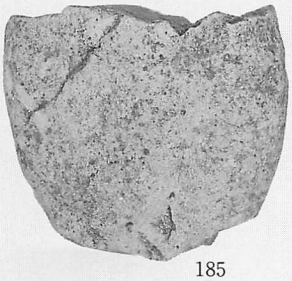




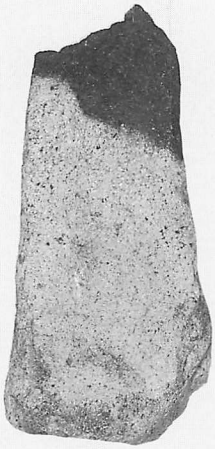
183



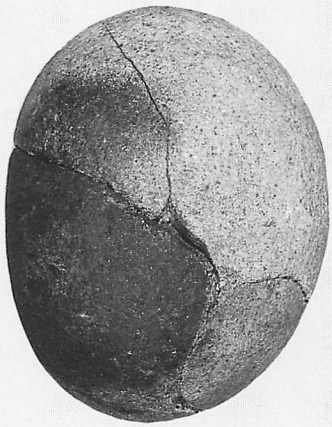
184



185

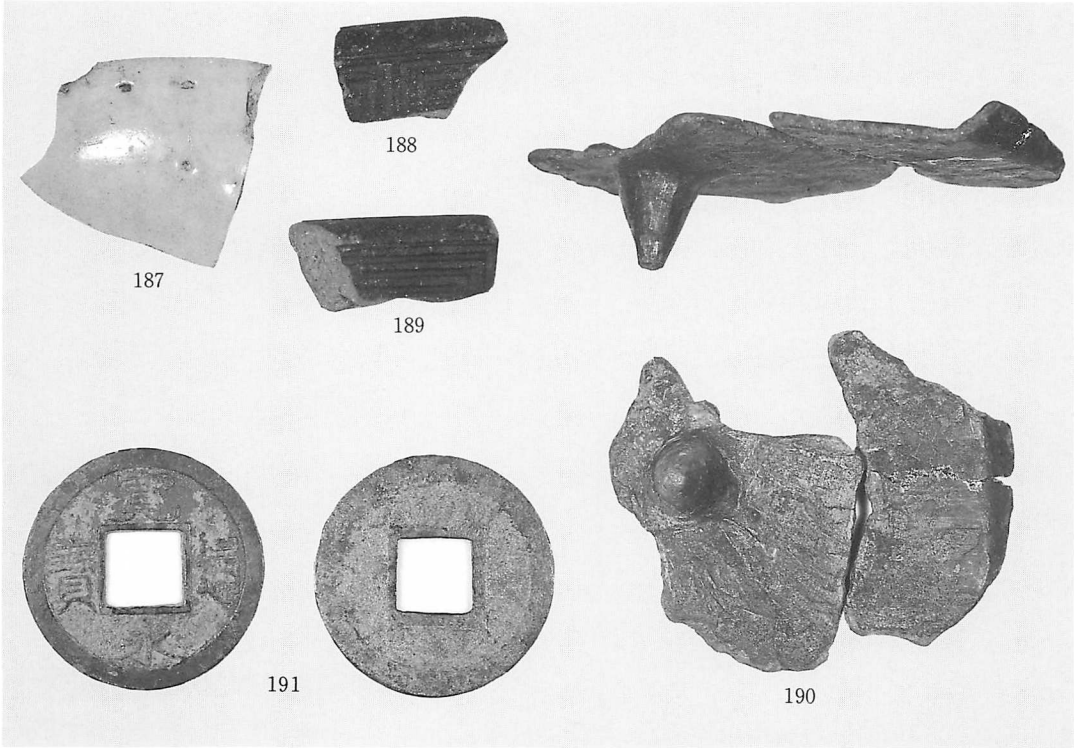


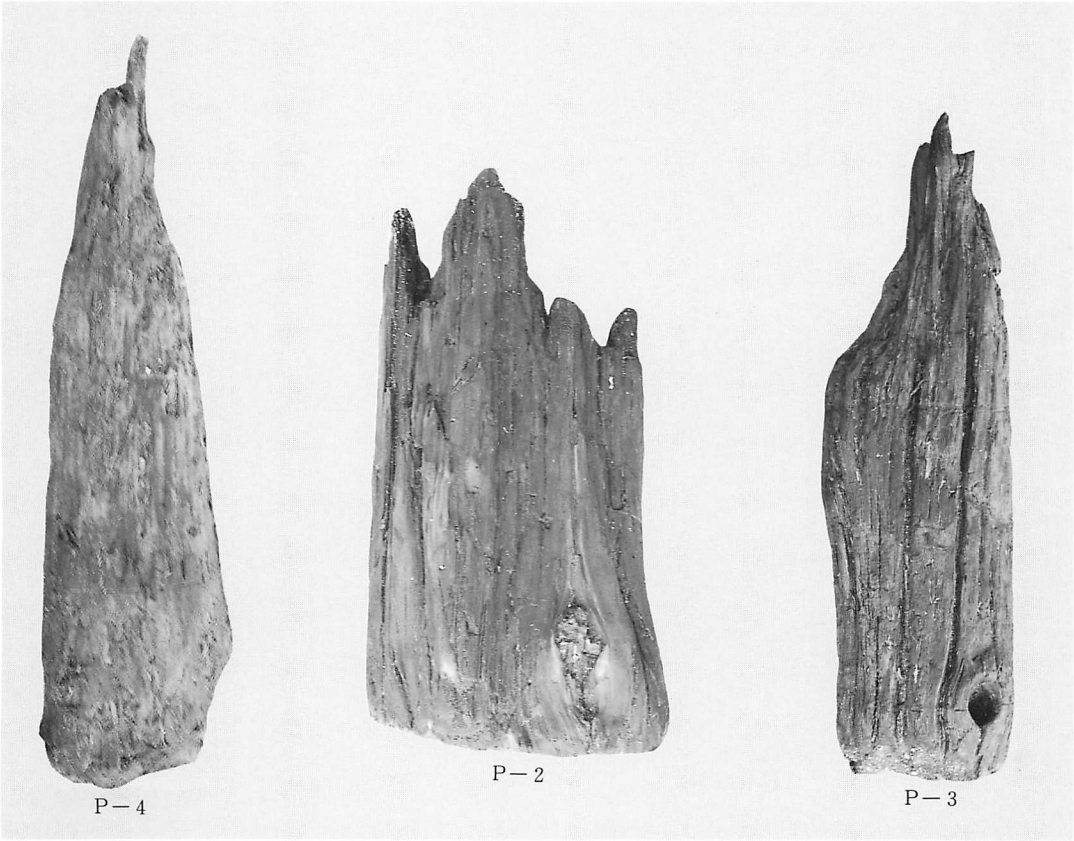
182



186

土製品・石製品





上段－中世から近世の遺物／下段－柱根

【発掘調査参加者】

《四柳町》　坂井俊次　坂井晶子　宮田光男　上田正則
《大　町》　浜田　穣　今井　勇　浜田　誉　黒川たまえ　大島とみ子
《金丸出町》　今井　潔　溶定千里
《酒井町》　砂田外次郎　砂田正子　清水かず子　北田美千子　池田富美子
　　川口敬二　北田茂治　砂田栄子
《下曽祢町》　岡山千代

四柳白山下遺跡Ⅲ

平成6年3月31日発行

編集・発行　石川県羽咋市教育委員会
　　石川県羽咋市旭町ア-200番地
　　〒925 電話(0767)22-7195
印　　刷　北陸コロタイプ印刷